

インターネットを用いた言語調査の一試論

公開型ウェブ調査の結果から

塩田雄大

要 約

日本語の現状を把握するためにウェブサイト上で実施している「あなたは多数派？少数派？」調査のデータを今後積極的に活用してゆくのにあたって、当データのさまざまな側面について考察し、以下のようなことを論ずる。

- ① 1年前の調査対象期間では回答者が男性に偏るという傾向があったが、今回の調査期間ではそのような偏りが見られなくなった
- ② さまざまな属性差として、男女差・年齢差・東西地域差（現住所・出身小学校・出身中学校）・国語辞典使用頻度を比較してみると、当データにおいては年齢差が比較的大きく表れている
- ③ 高年層と若年層という2段階で年齢差が大きく表れた項目については、10歳区切りで細かく見た場合でも、漸増的・漸減的な年齢差が鮮やかに見られるものが多い
- ④ 地域差の大きく表れた項目については、これまでの先行諸研究の成果と符合する結果になっているものが多い
- ⑤ データの分析から、これまでおそらく報告されたことのない言語上の年齢差・地域差のあるものがいくつか観察された。具体的には、「お寺・神社 [] 参拝する」での助詞の用い方（若年層は「を」が多い）、「おかげさまで」という言い方に関する使用と意識（この言い方を使わない・問題のある言い方であると考える人が若年層に多い）、「20日まで出てまいります」という文の意味解釈（これを「20日に出てくる」と解釈する人が若年層に多い）、漢字「鶏肉」の読み方（東日本では「トリニク」、西日本では「ケイニク」が多い）、メールに方言を用いる頻度（北海道および西日本では方言を多く用いる）、などといったことを論じた。こうした項目は、現代の日本語において必ずしも均質でない様相を示すものであり、今後の変化を注視しておく必要がある。

目 次

I インターネットを用いた言語調査に関して	94	5.1.4 個別に解釈すべき例	103
II 分析の対象	95	5.1.5 年齢差のまとめ	104
III 回答者全体の属性分布（性別・年代別）	95	5.2 東西地域差の大きい設問	104
IV 属性差の大小	96	5.2.1 地域差の明確な設問	104
V 個別事例の分析	97	5.2.2 やや地域差の見える設問	106
5.1 年齢差の大きい設問	97	5.2.3 個別に解釈すべき例	106
5.1.1 「ゆれ拡散」	99	5.2.4 地域差のまとめ	108
5.1.2 「勢力交替」	101	VI 当調査の限界とそれを意識した活用法	108
5.1.3 「ゆれ収束」	101	VII 本稿のまとめ	109

I インターネットを用いた 言語調査に関して

本稿は、ウェブを活用した調査「あなたは多数派？少数派？」での結果の扱い方と、個別の結果について検討することを目的としたものである。このウェブサイトは、NHK放送文化研究所のサイト [http://www.nhk.or.jp/bunken/] で「国語力テスト」アイコンをクリックすると見るができるようになっている。

前稿(塩田雄大(2005))でも論じたとおり、NHK放送文化研究所では、放送における共通語の構築のために、これまでさまざまな方法で日本語使用実態の把握に努めてきた。その有力な手段の1つとして、世論調査と同じく回答者を無作為抽出法によって集める形式をとったもの(ランダムサンプリング式調査)があるが、このランダムサンプリング式調査と、新たに実施しているウェブ調査「あなたは多数派？少数派？」とでは、結果の表れ方がどのように異なるか(あるいは共通しているか)、ということと比較・対照したのが、前稿である。本稿では、ウェブ調査でその後に蓄積してきたデータを対象に、表れた結果そのものに重点をおいて論を進める。

インターネットを用いて多数の人から意見を集めれば、それが「日本の現状」を正しく調査したことになるだろうか。決して、そのようなことはない。

インターネットを用いた調査法にもいろいろなものがあるが、どのようなものであっても伝統的な無作為抽出式調査(ランダムサンプリング式調査)にそのまま代替するものではない、という基本的認識は、今後も変わ

らないであろう。このことは、社会調査の方面からも実証的に検討されている(大隅昇(2001)、横原東(2001)、吉村幸(2001)、大隅昇(2002)、本多則恵・本川明(2005)、本多則恵(2005)など)。

しかし、インターネットによる調査法は無作為抽出式調査と同じ結果が得られないからと言って無価値であるとは限らない、ということも同時に語られている。筆者には、以下のことばが心に響いた。

原文ママ
「私はインターネット調査にランダム
サンプル的な代表性を求めることは木に
縁りて魚を求めるに等しい。原文ママしかし、その特色を用いたrelational marketingとか、医師と患者の双方向relationの保持、瀬踏みの情報の獲得とかには役立つのではないかと思う。あるいは、未然事故(インシデント)の把握とか改良点の早期把握とかにも有効であろう。要は使い道である。

インターネット調査で全体に対する代表性を求めることは調査の自滅への道である。しかし、我々はインターネット調査の統計的な研究は避けるべきではない。これがいかなる性格を持つか、いかに用いるのが統計的に妥当かを真剣に研究し、そのあるべき姿を「データの科学」の立場から探るのが我々のとるべき道と思う。」(林知己夫(2001))

「新しい調査手法への変化は、まずマーケティングから始まり、次いで社会調査、大学での研究者の調査、そして政府の調査へと移る。この移り変わりには十

五年程度かかる。インターネット調査は十年以内に方法が確立され、世論調査に使われているだろう。ただし、インターネットだけの調査から学べることは少ない。他の調査手法との平行調査をいろいろと試みて行ってほしい」(アメリカ大手調査会社ハリス・インタラクティブ社ハンフリー・テイラー氏の発言、松田映二(2005))

統計学の専門家の中には「インターネット調査は駅前調査である」と言う人もいるという指摘(大隅昇(2002))がある。このような場合、「駅前調査(=統計学的には許容されない調査)であるから利用しない」という考え方と、「駅前調査なりの利用法を探る」という考え方とがあろう。筆者は、後者に位置するものである。これはものの見方の違いであって、前者が後者の考え方を(あるいは後者が前者の考え方を)否定するというものではないように考えている。

II

分析の対象

前稿(塩田雄大(2005))は、調査「あなたは多数派?少数派?」とランダムサンプリング式調査との比較に主眼をおいていた。そのため、調査対象として取りあげたのは、2003年4月から2004年11月の間に毎月実施したもののうち、過去のランダムサンプリング式調査と同内容の項目に限定していた。

本稿では、2004年10月から2005年9月の間に毎月実施した全項目(アクセント関連の

設問を除く)を取りあげることにする¹⁾。なお、「あなたは多数派?少数派?」調査の概要については、前稿を参照されたい。

III 回答者全体の属性分布 (性別・年代別)

回答者の属性を男女別にすると、今回対象とした期間では、男性よりも女性の占める割合のほうがやや大きい(図1)。数値の上からだけ見れば、今回の結果は前回とは違って、ランダムサンプリング式調査のものとはほぼ同じ分布になっている。

このことについて、横原東(2001)での記述が参考になる。同論では1996年から1999年のあいだ毎年1回(計4回)実施したインターネット調査におけるサンプル構成の比較が示されているが、「女性の比率が毎年約1割ずつ増加」ということが明らかにされている。つまり、インターネットの初期利用者はかなり男性に偏っていたのに対して、時間の経過に伴ってその偏りが解消されているの

図1 ランダムサンプリング式調査と「あなたは多数派?少数派?」調査の回答者構成(男女別)

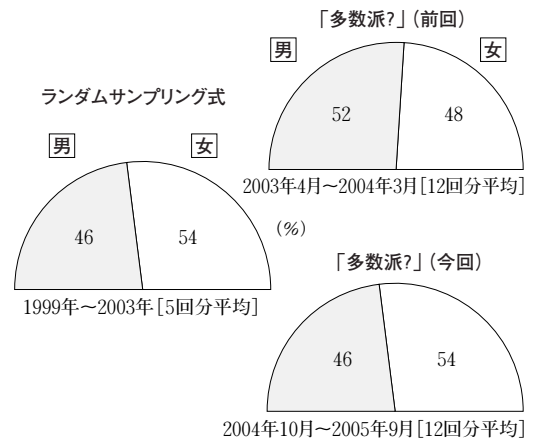
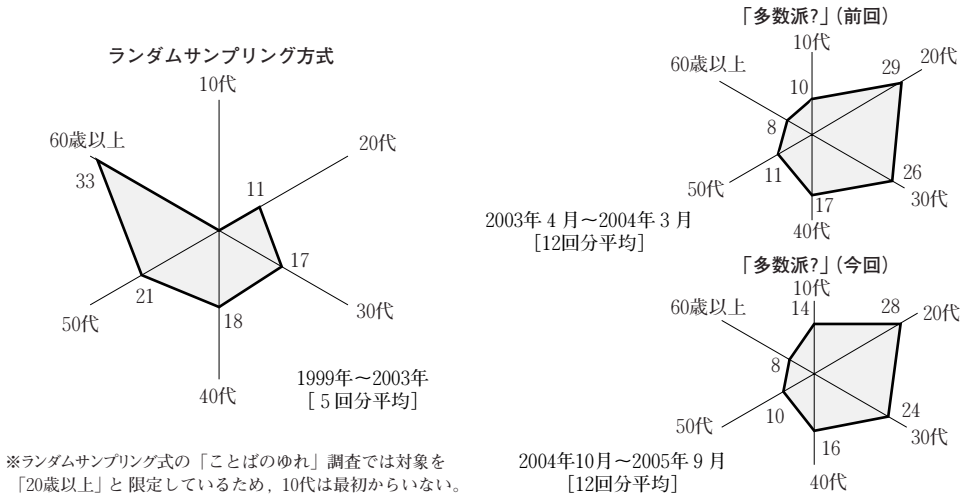


図2 ランダムサンプリング式調査と「あなたは多数派?少数派?」調査の回答者構成(年代別)



である。

本稿で取りあげるウェブ調査においても、今回(2004年10月～2005年9月)では前回(2003年4月～2004年3月)での男女比に比べて、女性の占める割合が大きくなっており、インターネット利用者のうちに占める女性の割合が増えてきたことを物語っていると言えるだろう。

いっぽう年代別には、前回の分布と大きな違いはない(図2)。

IV 属性差の大小

ここからは、設定した質問に対して寄せられた回答の分析に入ってゆく。

この「あなたは多数派?少数派?」調査においては、ある設問に対する回答を考察する際に、全体平均で「何パーセント」の人がある回答を選んだ、ということは、それほど意味がないものと筆者は考えている。この調査

法が母集団を確定させたランダムサンプリング式調査ではなく、悲観的な言い方をすればここでの回答者集団はといったどのような人たちなのかが明らかでない以上、ここで得られた回答がインターネット利用者全体を代表しているという保証はなく、まして日本人全体の意見を正確に反映している蓋然性はきわめて薄い(まったくない)からである。

この調査においては、「全体平均」の結果よりも、回答者間における属性差のほうに利用価値があろう。

次に、この調査における質問の設定方法について述べると、設問群全体として何らかの体系的な仮説・検証を目指すような形式にはなっていない。「ことばのゆれ」を中心とした語形の問題や言語意識の問題など、そのときどきで調べる必要性が生じた項目を毎月選んでおり²⁾、設問全体の性格には一貫性が希薄である。そのときどきの必要性に応じて調査した諸項目の総体を材料として、リサイクル的にあらためて分析してみようというのが、ここでの試みである。

ここでは、いくつかの属性差を数値化して示す。「男女差」を例にして算出方法を説明すると、以下ようになる。

- ① 全体平均においてもっとも多く選ばれた回答（最頻回答）を対象とし、
- ② その回答についての「女性におけるパーセンテージ」から「男性におけるパーセンテージ」を引き算して、
- ③ その数値をその回答の「男女差」とみなすことにする。

「最頻回答」を対象とする方法は前稿でも採用したが、これが最良であるかどうかは正直なところ迷いがある。属性差の大きさを測定する暫定的な方法として、ひとまず運用してみることにしたい。

取り扱う属性差は、以下のとおりである。

男女差（男性・女性）
 年齢差（39歳以下・40歳以上）
 現住所の東西地域差³⁾
 （現住所が東日本・西日本）
 出身小学校の東西地域差
 （小学校が東日本・西日本）
 出身中学校の東西地域差
 （中学校が東日本・西日本）
 国語辞典の使用頻度差⁴⁾
 （ふだん国語辞典を使う・使わない）

各設問の最頻回答についてそれぞれの属性差を算出したものを一覧にまとめたのが表1である。ここでは、各最頻回答の属性差それぞれについて絶対値をとり、その絶対値の平均値を属性差ごとに算出した。この平均値は、

この設問群における各属性差のふるまいの大きさを示す指標と考えることができる。

表中で最下欄に示した平均値を見ると、「年齢差」が7.8であり、ほかの属性差と比べてももっとも大きくなっている。これは、ここで対象とした設問群の中では、男女差・東西差（現住所／出身小学校／出身中学校）・辞典使用頻度差に比べて、年齢差のほうが大きいことを示している⁵⁾。

言い換えると、ここで対象としている設問群は、年齢差を考察するのに比較的よい資料であることにつながるだろう。

V 個別事例の分析

ここまでの考察で、この設問群における属性差の一端がわかった。ここからは、個別の設問・回答について検討する。

5.1 年齢差の大きい設問

ある「ことばのゆれ」の現象に関して、年齢差が比較的大きい場合、それは言語変化が始まっているもの、あるいは進行中のものとしてとらえることができ、「変化の兆し」を知る材料となる。

ここでは、年齢差の大きい項目（便宜的にさきほどの計算方法で年齢差10.0以上のものとする）について、若干の考察を試みる。

言語変化の一類型として、正用とされてきた言い方（伝統的表現）に対する新しい言い方（新興的表現）が発生して「ことばのゆれ」が生じ、次第にその新興的表現が勢いを増して勢力交替し、新興的表現が伝統的表現を凌

表1 各最頻回答の諸属性差

	男女差 [+は女性に多い]	年齢差 [+は若年に多い]	現住所差 [+は東日本に多い]	小学校差 [+は東日本に多い]	中学校差 [+は東日本に多い]	辞典使用差 [+は非使用者に多い]
0410 Q2 a	9.2	7.0	4.1	2.5	3.2	3.1
0410 Q3 d	-5.2	-20.8	-1.7	-2.0	-2.4	-12.8
0410 Q4 i	-4.0	2.4	17.6	14.9	14.8	5.3
0410 Q5 d	1.3	-2.5	6.8	5.6	6.0	-0.6
0410 Q6 a	-3.8	6.2	10.3	-0.9	5.4	5.3
0411 Q2 a	-0.3	13.8	14.1	15.4	16.0	0.2
0411 Q3 b	1.9	-10.9	-1.5	-1.6	-1.3	-0.2
0411 Q4 a	0.3	15.2	3.9	4.6	4.8	0.5
0411 Q5 b	-2.3	18.0	0.7	3.1	3.1	0.0
0411 Q6 b	0.8	-1.0	-0.4	-0.9	-0.7	0.1
0412 Q2 a	1.8	-4.4	1.0	-0.1	-0.7	-1.2
0412 Q3 d	-4.4	11.4	0.6	0.6	1.0	0.7
0412 Q4 b	0.0	-1.3	0.3	0.8	0.1	0.4
0412 Q5 c	2.9	-12.6	3.6	1.3	0.1	-8.4
0412 Q6 b	0.9	-7.2	-6.8	-8.3	-8.5	-5.0
0501 Q2 c	-2.5	8.8	9.1	6.9	6.5	10.4
0501 Q3 b	-2.3	-24.8	-7.8	-8.5	-8.9	-5.4
0501 Q4 b	4.9	-1.7	2.4	-0.6	-0.9	-0.1
0501 Q5 b	-3.0	-14.2	-0.2	-3.4	-3.5	-4.8
0501 Q6 a	4.2	0.1	1.4	-0.5	-0.6	2.5
0502 Q2 b	-4.4	18.6	11.1	9.1	9.9	1.0
0502 Q3 a	5.5	-1.3	-3.6	-6.0	-7.6	-7.7
0502 Q4 b	0.6	-0.3	-0.5	-0.6	-0.8	-0.3
0502 Q5 c	-4.6	14.6	0.4	-1.0	-0.5	5.3
0502 Q6 b	-1.9	13.3	-0.8	-1.9	-1.0	2.1
0503 Q2 b	0.3	0.2	-3.3	3.1	-2.6	1.4
0503 Q3 b	2.2	2.0	-1.1	-1.1	-1.2	0.2
0503 Q4 b	2.3	17.1	2.4	1.9	1.2	4.8
0503 Q5 b	5.3	-7.1	1.7	-0.5	-0.5	-0.7
0503 Q6 b	2.5	-5.3	1.3	1.1	0.8	-1.1
0504 Q2 c	8.8	2.2	-1.4	-0.4	-0.5	0.7
0504 Q3 a	2.0	-8.8	1.0	0.2	-0.8	-1.5
0504 Q4 c	-12.8	-0.1	4.3	1.9	2.9	-2.6
0504 Q5 c	11.8	5.1	2.5	4.9	5.0	0.9
0504 Q6 b	-3.7	5.2	-3.7	-2.0	-2.8	6.0
0505 Q2 a	2.3	3.4	-2.0	-3.6	-3.2	0.6
0505 Q3 c	8.4	7.6	-1.0	-1.2	-0.8	-0.9
0505 Q4 c	6.0	1.8	-0.2	3.1	2.6	3.9
0505 Q5 c	8.1	8.4	1.7	2.5	2.1	4.9
0505 Q6 a	3.9	-3.0	-0.8	-0.5	-0.2	0.2
0506 Q2 b	-2.0	-18.2	-2.1	-2.1	-1.3	4.8
0506 Q3 b	6.6	12.3	0.0	1.5	1.5	-0.4
0506 Q4 b	0.8	7.6	1.5	2.4	2.2	0.1
0506 Q5 a	-2.0	7.2	0.3	1.3	1.2	2.8
0506 Q6 c	1.1	7.0	4.6	1.6	1.3	0.8
0507 Q2 a	13.5	2.1	10.9	13.5	13.9	-2.2
0507 Q3 b	5.7	19.1	20.8	23.1	23.9	9.1
0507 Q4 b	1.1	0.4	0.3	0.2	0.5	1.0
0507 Q5 a	4.3	-1.3	-6.9	-7.9	-9.0	3.6
0507 Q6 d	11.5	-6.7	-2.2	-3.4	-2.7	-4.7
0508 Q2 b	9.4	-12.5	-5.4	-4.6	-5.2	-3.5
0508 Q3 a	4.1	-6.3	4.7	2.9	2.8	-3.1
0508 Q4 a	2.9	3.3	1.3	-0.9	-0.8	-3.6
0508 Q5 d	-4.0	3.6	-3.3	-0.8	-1.5	2.7
0508 Q6 a	7.4	-2.6	-3.6	-6.5	-6.4	2.8
0509 Q2 c	8.8	-3.6	3.6	3.1	3.7	-3.1
0509 Q3 c	14.5	-8.5	8.2	3.4	2.6	-1.8
0509 Q4 a	2.0	-19.4	-4.1	-1.9	-2.2	-5.7
0509 Q5 a	4.4	12.8	-1.0	-1.1	-1.4	3.5
0509 Q6 b	1.6	6.5	-13.6	-14.1	-14.7	-2.8
絶対値平均	4.4	7.8	4.0	3.7	3.9	2.9

属性差が10.0ポイント以上のものに網掛けを施した

凡例：「0507 Q3 b」(2005年7月分として実施された問3における最頻回答 b)

「鶏肉」を「トリニク」と読む(「ケイニク」とは読まない) 数値はすべて小数点以下第一位までの四捨五入表示

全体55.9% 女性58.2%-男性52.6%=男女差5.7

39歳以下63.6%-40歳以上44.5%=年齢差19.1 東日本62.5%-西日本41.7%=現住所差20.8

東日本64.0%-西日本40.9%=小学校差23.1 東日本64.6%-西日本40.7%=中学校差23.9

辞典非使用62.7%-辞典使用53.6%=辞典使用差9.1

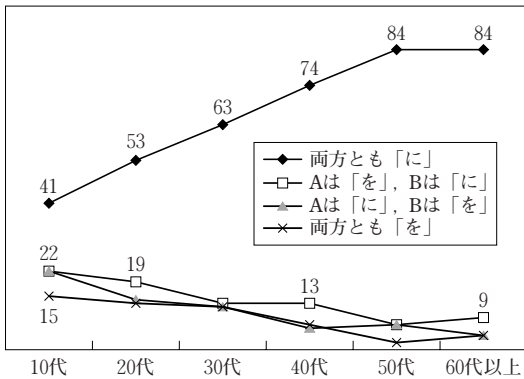
が駕して、ついには「ゆれ」が収束するというものがあることがよく知られている。

ここで扱うのはあくまで現時点における年齢差の分布であり、いわゆる「見かけ上の時間 (apparent time)」に過ぎないのではあるが、ひとまず「ゆれ拡散」「勢力交替」「ゆれ収束」という3つの分類を施して概観してみる。

5.1.1 「ゆれ拡散」

図3は、「お寺 [] 参拝する」「神社 [] 参拝する」という文における助詞の選択に関する設問で、さきほどの計算方法で年齢差がもっとも大きくなった項目である。比較的高齢の年層では「両方とも『に』」という回答

図3 0501 Q3 A「お寺 [] 参拝する」
B「神社 [] 参拝する」は



が集中して答えられているが、年代が若くなるに従ってほかの回答が多くなっている様子がうかがえる。「ゆれ」が拡大・拡散している例であると言える。

図4と図5もこれと同じく、若い年代になると「ゆれ」が大きくなっている。

図4では、「もんであげてください」という言い方について高齢の層では否定する人が多いのに対して、若い年代になるとそうではない意見が目立つようになってくる⁶⁾。

図5では、「おかげさまで」という言い方に対して、若い層では「自分は言わない」や「この言い方には問題がある」という意見が比較的多くなっている。なお、この「おかげ

図4 0410 Q3「もんであげてください」は

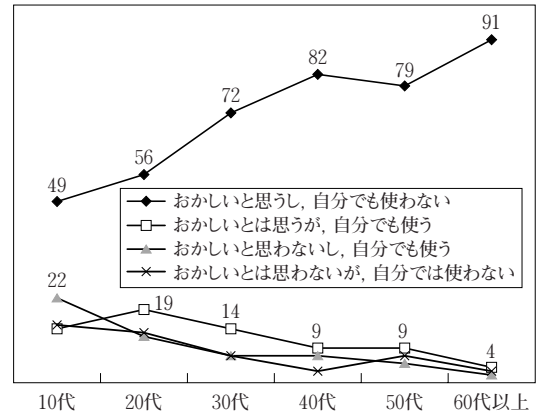
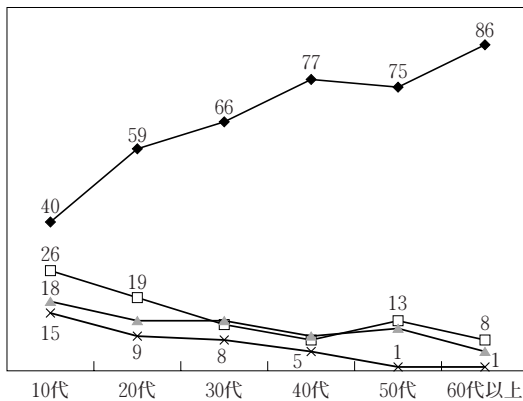


図5 0509 Q4「おかげさまで」は



◆ 何も世話になっていない場合であっても、自分でもこのように言うことがあるし、この言い方には問題はないと思う
 □ 何も世話になっていない場合、自分ではこのように言うことはないが、この言い方には問題はないと思う
 ▲ 何も世話になっていない場合であっても、自分でもこのように言うことはあるが、この言い方には問題があると思う
 × 何も世話になっていない場合、自分ではこのように言うことはないし、この言い方には問題があると思う

さまで」は、たとえ相手の世話になっていなくても本来問題なく使える言い方である⁷⁾。

図6では、「新鮮な野菜[を/が]売っているスーパーを探している」という表現について、高年の層では[が]を認めない意見が大勢を占めているのに対して、年代が若くなるに従って「実際には自分は『が』と言うと思う」という回答が多くなっている。

図6 0501 Q5 「新鮮な野菜[]売っているスーパーを探している」は

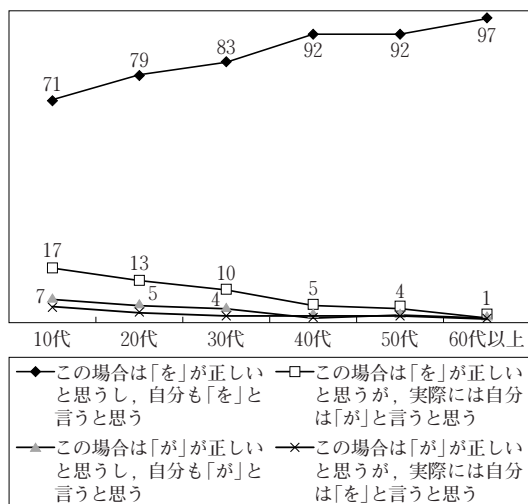


図7 0502 Q6 「〇〇部長は20日まで出てまいります」は

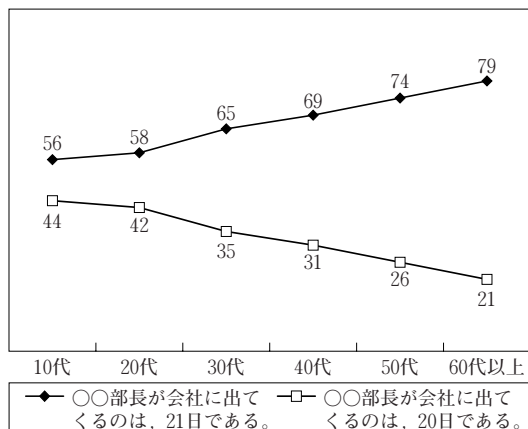


図7では、「〇〇部長は20日まで会社に出てまいります」という言い方の解釈に関して、高年の層では「〇〇部長が会社に出てくるのは21日である」というとらえ方で比較的安定しているが、年代が若くなるに従って「20日」という解釈が多くなっている⁸⁾。

図8では、年代が若くなるに従って「両方とも濁音(デバナ)」以外の回答が多くなっている(60代以上の層は例外)。

図8 0411 Q3 A「～をくじかれた」 B「番茶も～」は

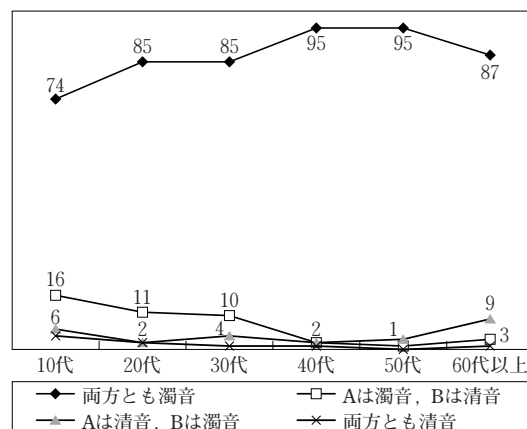
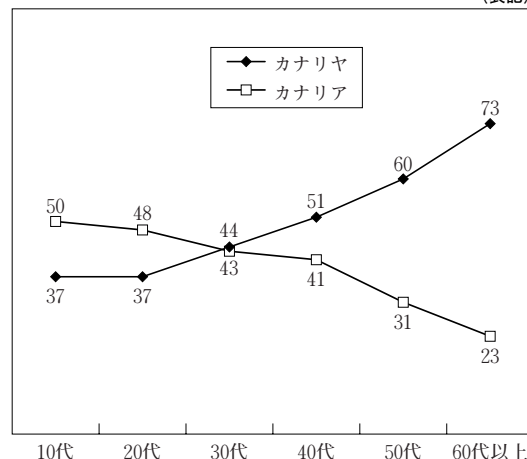


図9 0506 Q2 「カナリヤ/カナリア」は

(表記)



5.1.2 「勢力交替」

図9は、優勢な回答が高年の層と若い層とで逆転している例である。若い年代では、カナリヤよりもカナリアのほうが多くなっている⁹⁾。

図10では、「兄には子どもが2人あります」という言い方に関して、若い年代になるほど「聞いたことがある（この言い方には問題がある+問題がない）」という回答が少なくなり、「聞いたことがない」という回答が多く

図10 0508 Q2 「兄には子どもが2人あります」は

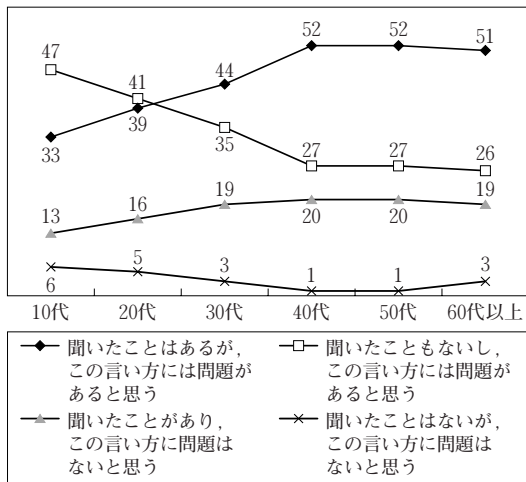
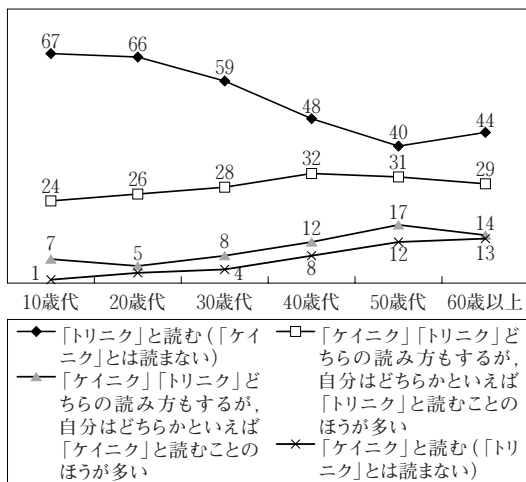


図11 0507 Q3 「鶏肉」は



なっている¹⁰⁾。10代および20代では、「聞いたこともないし、この言い方には問題があると思う」という回答がもっとも多い。

5.1.3 「ゆれ収束」

図11は、若い年代になるに従って「ゆれ」が収束している例である。若い年代では、「鶏肉」をケイニクとは読まない人が多くなっている¹¹⁾。

図12もこれと同様に、若い年代になると

図12 0502 Q2 「[舌/口]が肥えている」は

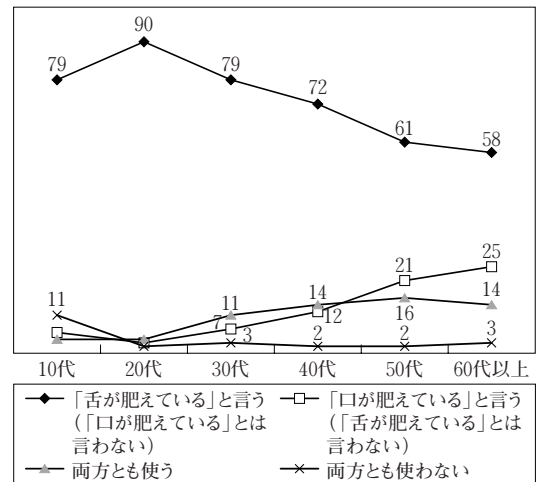
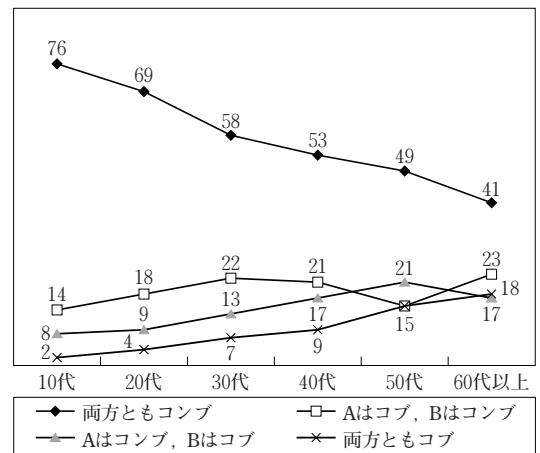


図13 0411 Q5 A 「〜で出汁（だし）をとった」 B 「とろろ〜」は



「ゆれ」が小さくなっている。10代はやや例外的であるが、「口が肥えている」という言

いは若い年代になるほど少なくなっている様子が表れている。

図 14 0503 Q4 「毎年」は

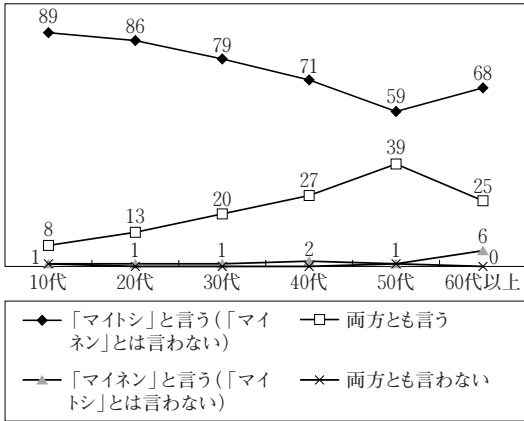


図 15 0411 Q4 「大根のぬか漬け」は (複数回答, 上位4位のみ表示)

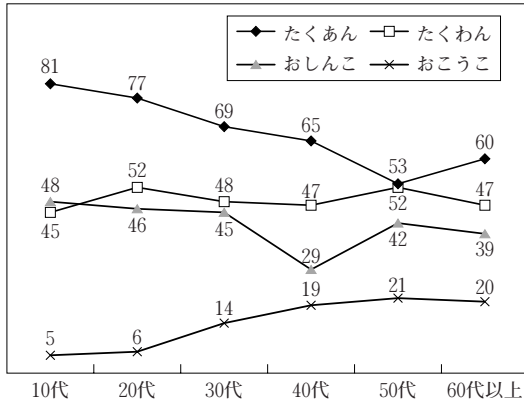


図 16 0502 Q5 「枝が～」 「枝を～」は

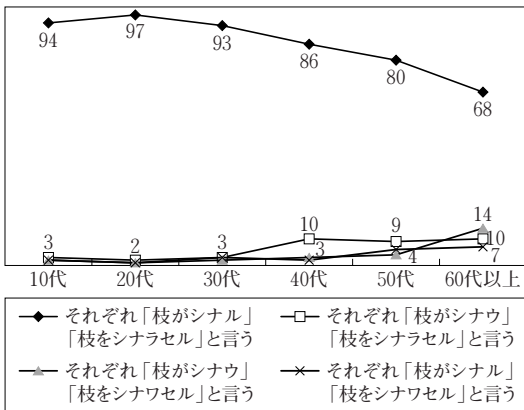


図 17 0411 Q2 「薄く切った豆腐を油で揚げたもの」は (複数回答)

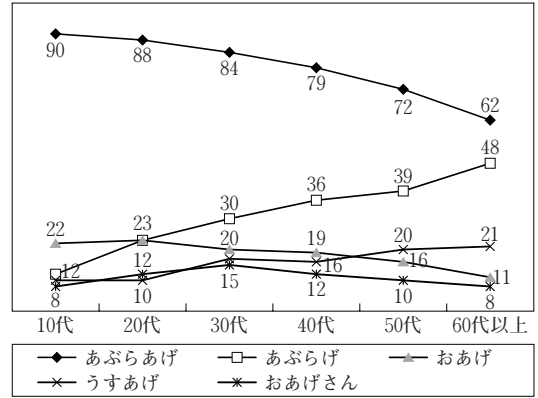


図 18 0506 Q3 「アーティスト/アーチスト」は (表記)

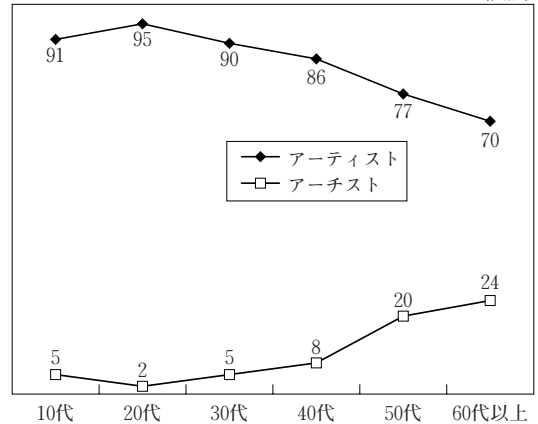
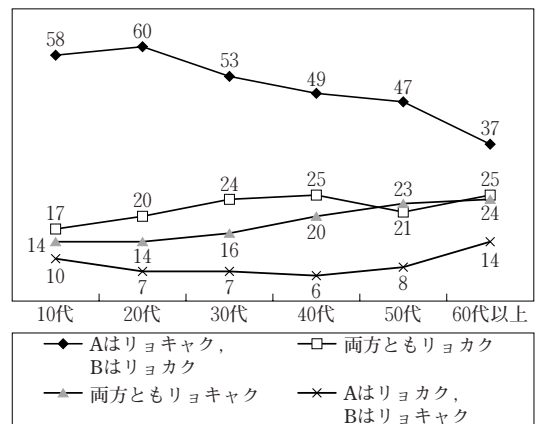


図 19 0412 Q3 A 「旅客の安全」 B 「旅客列車」は

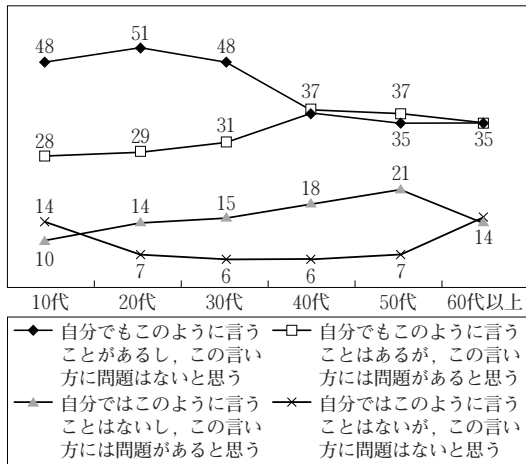


これ以降、図13～19においても¹²⁾、個別には10代や60歳以上などで例外的な分布は見られるものもあるが¹³⁾、若い年代になるほど、傾向としてある1つの回答に収束する形になっている。

5.1.4 個別に解釈すべき例

図20は、「相手からのお願い・提案を断るつもりで『考えておきます』と言う場合があります。このような『考えておきます』について、どう思いますか。」という設問に対する

図20 0509 Q5 「考えておきます」は



の回答を年代別に示したものである。それぞれの回答選択肢ごとの年代別分布として見ると、やや雑然としている。しかし図20abのように回答を統合してみると、一定の傾向が見えてくる。つまり、「言うか言わないか」(図20a)では明確な年齢差は見られないが、「問題があるかと思うかどうか」(図20b)では、若い年代になるほど「問題がある」が多い(60代以上は例外)という傾向が浮かび上がってくる¹⁴⁾。

最後に図21は、全体として見れば若い年代には「リョカッキ」が少なくなっているように見えるが、10歳区切りの年代としてはそれ

図20b 0509 Q5 「考えておきます」は

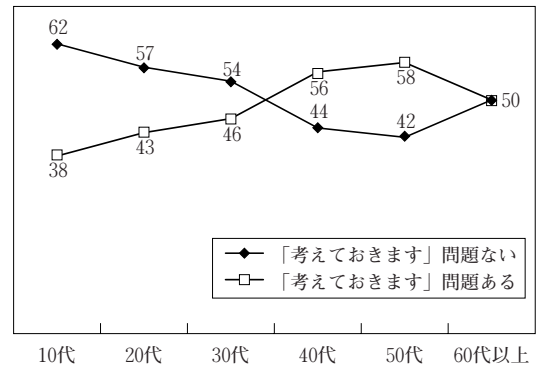


図20a 0509 Q5 「考えておきます」は

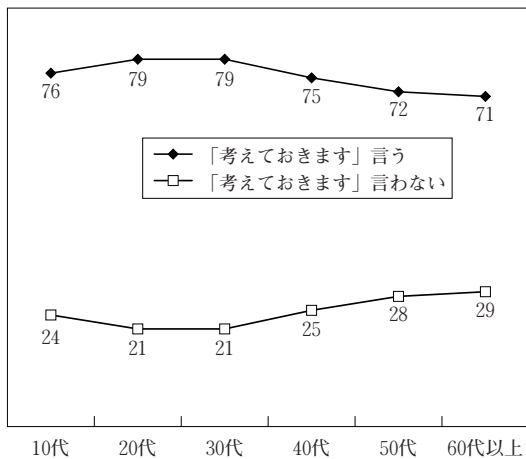
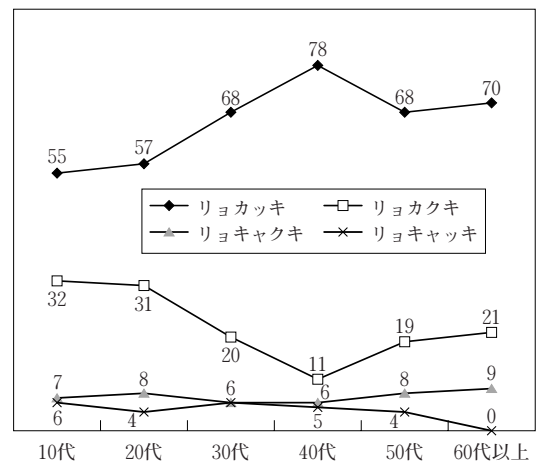


図21 0412 Q5 「旅客機」は



ほど明確な年代的対照を示していない¹⁵⁾。

5.1.5 年齢差のまとめ

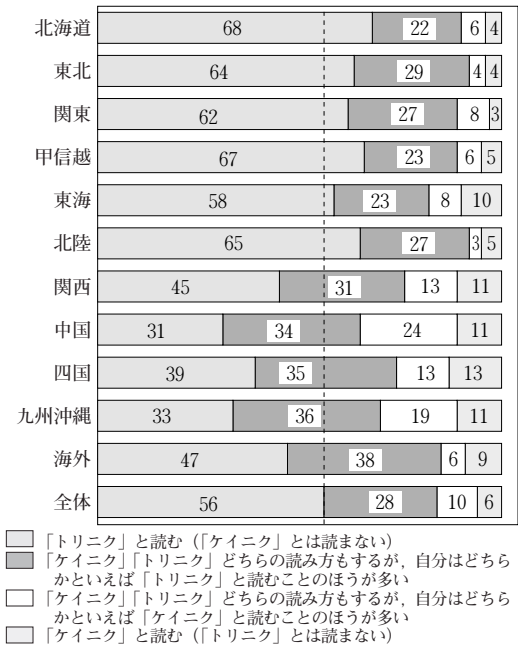
ここで年代差を見たのは、5.1で記述したとおり、高年層と若年層（具体的には40歳以上と39歳以下）との算術的差が10.0以上あったもので、つまり全体として比較的年齢差の大きい項目である。このように全体として年齢差の大きい項目の分布をさらに10歳区切りで見たところ、内部構造としてもほとんどの項目で鮮やかな（漸増的・漸減的な）年齢差が見られた。このことは、ここで扱っているデータに関して、年齢差が大きく表れた項目については、その年齢差の内部構造も安定しており、年齢差を推定する資料としての本資料の活用に積極的な根拠を与える結果になっている。

5.2 東西地域差の大きい設問

ある「ことばのゆれ」の現象に関して、地域差が比較的大きい場合、それが言語変化に関連しているのであれば、その変化の速度・方向性が全体として必ずしも一様でないことを示すものとなる。もし、ある言語変化の速度・方向性が全国一様なのだとしたら、地域差は発生しえない。

さきほどの計算方法で東西地域差（現住所・出身小学校・出身中学校）が10.0以上であったものは、7項目であった（前掲表1参照）。それぞれ、現住所・出身小学校・出身中学校についてほぼ同様の結果が出ており、今回の調査の範囲内では生育地と居住地との影響の違いはあまり大きくないと言えそうである¹⁶⁾。そのため、ここでは便宜的に現住所に関する差を、地域ブロック別に見てみるこ

図 22 0507 Q3 「鶏肉」は



とにする。

5.2.1 地域差の明確な設問

図22は、「鶏肉」という字をどう読むか、という設問で、さきほど図11では年齢差について見たものである。地域差としては、概して東日本および北陸では「トリニク」としか読まないという回答が多いのに対して、西日本では「ケイニク」とも（orと）読むという回答が目立つ。このことについて筆者は、「トリニク」という言い方をその地域でふだん使うかどうかということと強く関連があるものと推定している。

西日本では、ふだん「トリニク」という言い方をあまりせず、「カシワ」と言う地域が多いことがわかっている¹⁷⁾。そのため、東日本の人は「鶏肉」という表記を見たときに日常よく用いる「トリニク」という音を当てはめる傾向が強いのに対して、西日本ではも

もと「トリニク」という言い方をあまりしないので、「鶏肉」を見た際にそれぞれの漢字を音読みして「ケイニク」と読む人が多いのではないだろうか。

図23は、「書かれています」という言い方を聞いたことがあるかという設問で、前稿(塩田雄大(2005))でも同設問の地域差についてふれたことがある。九州沖縄およびそれに隣接する中国地方においては、この言い方を実際に聞いたことがあるという回答が非常に多く、先行諸研究の結果と合致する¹⁸⁾。

図24は、いわゆる「油揚げ」のことを何と呼ぶか、ということについて複数回答で尋ね

たものである。全国平均と比較すると、「うすあげ」が北陸・関西に多いこと、また「おあげさん」が関西・四国に多い点が注目される¹⁹⁾。

図25は、友人にメールを出す際に方言をまじえるかどうかを尋ねたものである。「方言をまじえて書くことがほとんどであるときどきある」の全国平均は9+33=42%であるが、北海道および東海以西では全国平均よりも方言使用率が高く、東北と関東では低い。これは、ふだんの会話で方言をどの程度用いるか、という先行研究の結果と同じ傾向を示している²⁰⁾。

図 23 0410 Q4 「書かれています」は (複数回答,上位2位のみ表示)

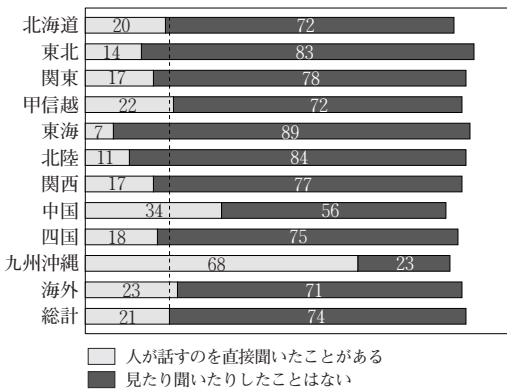


図 24 0411 Q2 「薄く切った豆腐を油で揚げたもの」は (複数回答)

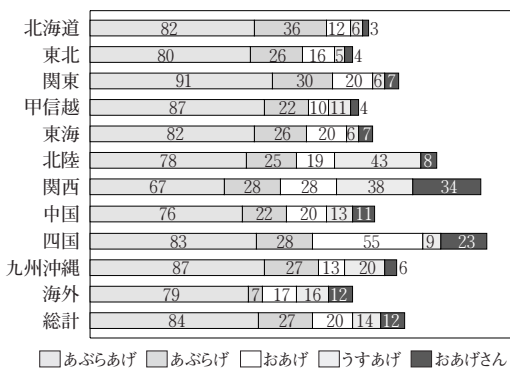


図 25 0509 Q6 友人にメールを出すときには

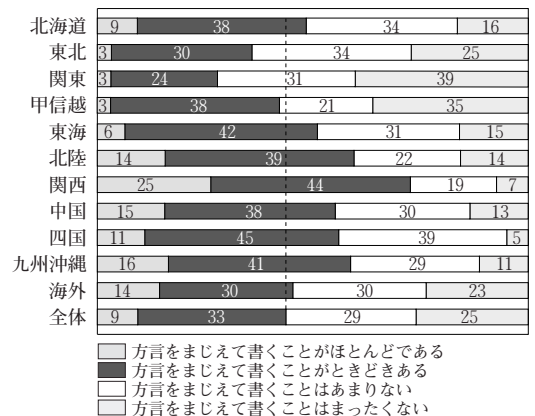


図 26 0502 Q2 「[舌/口]が肥えている」は

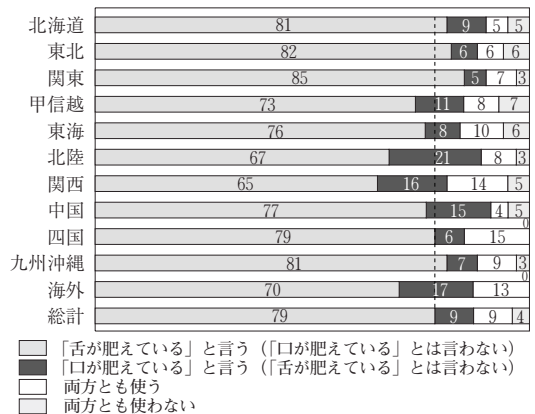


図 27 0507 Q2 「身を[粉]にして」は

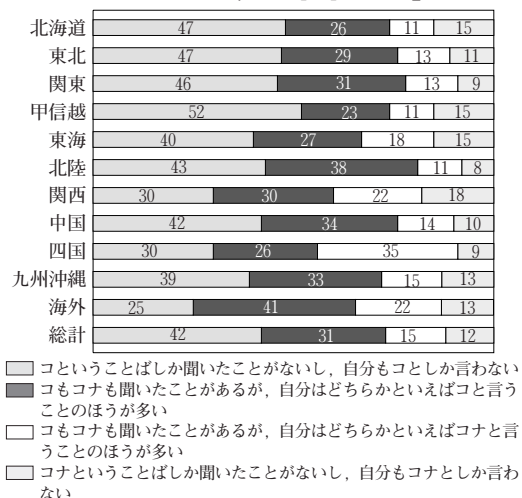


図 28 0410 Q6 「すし 1 カン」は

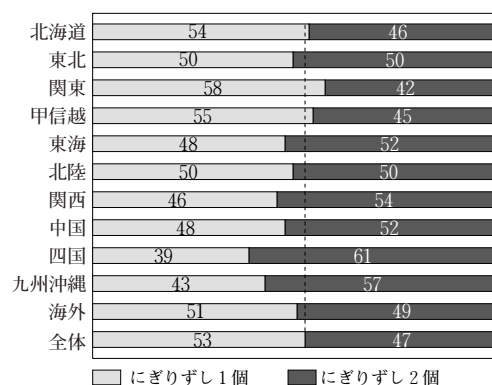
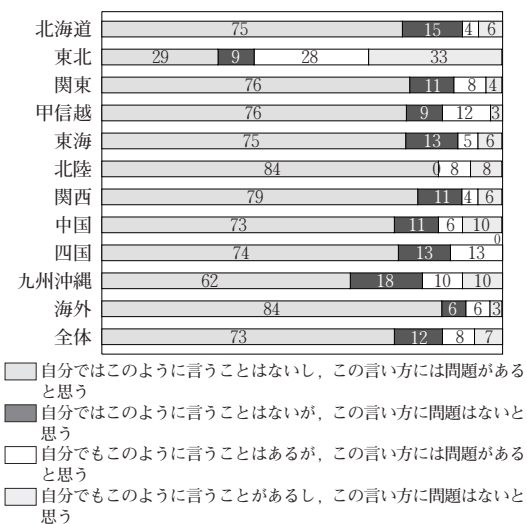


図 29 0507 Q6 「お先します」は



5.2.2 やや地域差の見える設問

図26は、「舌が／口が肥えている」という言い方について尋ねたものである²¹⁾。関西・北陸において「舌が肥えている」の回答がやや少ない。

図27は、「身を粉にして」という言い方で「粉」について尋ねたものである²²⁾。全体として見ると、「コ」しか認めない回答が東日本にやや多く西日本にやや少ないように見える²³⁾。

図28は、「すし 1 カンとは何個のことを表すか」ということを尋ねたものである。前稿（塩田雄大（2005））でも取りあげたが、東日本は「1 個」派が多く西日本は「2 個」派が多い、という傾向があるように読める²⁴⁾。

図26・27・28は、さきほどの計算法で東西地域差がそれぞれ11.1・10.9・10.3であった。この程度の数値だと、地域ブロック別に見た場合にはあまり明確な地域差として表れてこないのかもしれない。

5.2.3 個別に解釈すべき例

これまで取りあげたのは、東西地域差としてある程度の差を見せる項目である。しかし地域差というのは、常に東西の差として表れるというものではない。ある特定の地域にだけある回答が目立って多い、という地域差も当然存在するのだが、こういったものはさきほどの計算法では対象にならないことがある。

ここでは、そのようなものについていくつか取りあげてみる。

図29は、職場などで自分が先に帰る場合の「お先（さき）します」という言い方につい

て尋ねたものである。この「お先します」という言い方が東北地方に多い方言的用法（東京では「お先に」あるいは「お先に失礼します」と言う）であることが佐藤亮一監修（2002）p.355で指摘されており、今回の結果はそれを裏付ける形になっている。

図30は、「中華丼／中華飯」という料理の名称について尋ねたものである。全国的には「中華丼」しか認めないという回答がもっとも多い（66%）のだが、この回答は東海・北陸と東北・北海道では必ずしも多くはなく、これらの地域では「中華飯」という言い方もかなりなされていることが見て取れる²⁵⁾。

図31は、野菜の「れんこん／はす」について尋ねたもので、「花」ではなく「食べる部分（地下茎）」の呼び名について質問している。「れんこん」しか認めないという回答は全国で24%だが、関東・甲信越ではこれよりも少なく、この地域では「はす」も有力な言い方であることを示している。東京では「ハス」が地下茎のことも指す、というこれまでの指摘と符合する結果となっている²⁶⁾。

図32は、「大根のぬか漬け」の呼び名について複数回答で尋ねたものである。これについては、江戸時代において京都・大坂では「香の物」「かうかう」、江戸では「沢庵漬」という地域差があったという指摘がある²⁷⁾。本稿のデータにおいて関西に着目すると、やはり「おこうこ」（全国平均11%，関西20%）・「こうこ」（同8%，15%）は比較的多く、「たくあんづけ」（同9%，5%）は比較的小さい、という結果が出ており、このような地域差が今日でも存在し続けているものと言うことができる。

図30 0507 Q5 「中華丼／中華飯」は

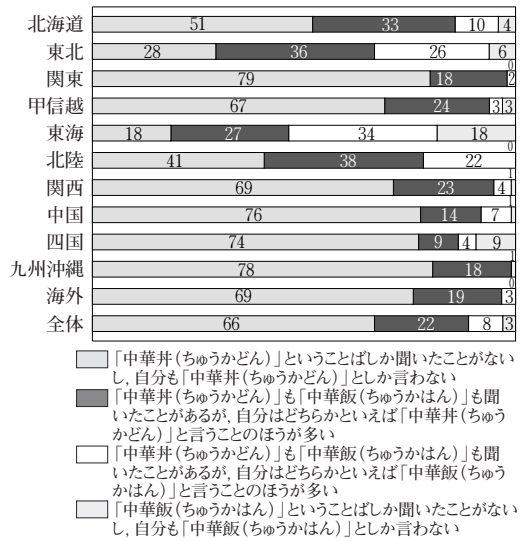


図31 0509 Q3 「れんこん／はす」は

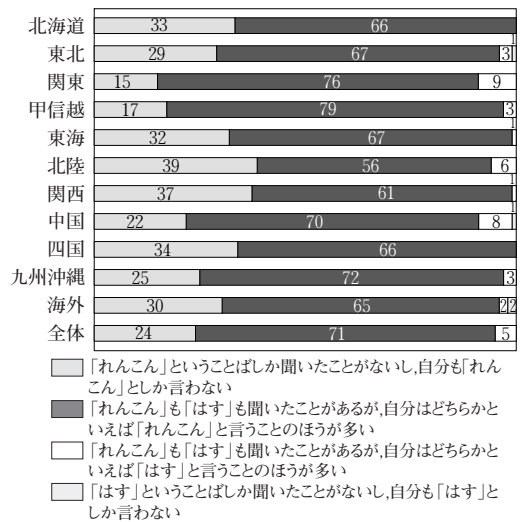
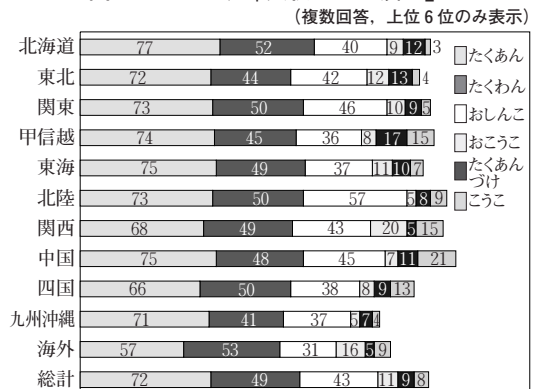


図32 0411 Q4 「大根のぬか漬け」は



5.2.4 地域差のまとめ

ここでは東西地域差が比較的大きく表れているものと、ある回答が特定地域に限って多かったものを取りあげてきた。どちらにおいても、これまでに先行研究があるものについては、それと大きく矛盾するような結果は出ておらず、むしろ先行研究の成果を裏付けるようなものが多い。

これは、この調査による結果を地域差判定の資料として活用することの妥当性に関して、1つの大きな後ろ盾となろう。

VI 当調査の限界とそれを意識した活用法

前稿（塩田雄大（2005））および本稿の冒頭でも指摘したことだが、当調査はランダムサンプリング式調査にそのまま代替しうるも

のにはならない。そのことを、あらためて見てみよう。

表2 abは、まったく同一の質問内容・回答選択肢を用意して、ランダムサンプリング式調査（柴田実・塩田雄大（2005）、2005年3月調査）とウェブ調査（2005年4月調査）とで尋ねてみた結果をまとめたものである。

まず全体平均を見ると、ランダムサンプリング式調査では「交ぜ書き」がもっとも多く答えられている回答（最頻回答）であるのに対して、ウェブ調査での「交ぜ書き」は3つの選択肢のうちもっとも少なく（「わからない」はここでは考慮に入れない）、「使い分け」が最頻回答となっている。

年齢差について見てみると、ランダムサンプリング式調査では年代が若くなるほど「使い分け」の回答が多くなるという傾向があるのに対して、ウェブ調査ではそのような傾向は指摘できない。

国語辞典の使用頻度については、ランダム

表2a 字幕スーパーの漢字表記 [ランダムサンプリング式調査]

Q テレビの字幕スーパーについてお聞きします。現在、テレビの字幕スーパーに使う漢字は、基本的に学校の国語の授業で習う範囲のものを使うことになっています。たとえば、次のように「肋骨」「脾臓」「肛門」は学校で習わない漢字を含んでいるので、「ろっ骨」「すい臓」「こう門」と書くことになっています。このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。	ア. どんな番組であっても、字幕スーパーではだれでも読めるように「ろっ骨」「すい臓」「こう門」と書くべきだ	イ. どんな番組であっても、字幕スーパーではもともとの漢字を使って「肋骨」「脾臓」「肛門」と書くべきだ	ウ. ひらがなで書くか漢字で書くかは、多くの人が見る番組か、あるいは専門的な内容の番組か、といったことによってもかわらない	(わからない)
	「交ぜ書き派」	「表外字使用派」	「使い分け派」	
全体	37.2	28.0	29.2	5.6
男	38.7	31.1	25.8	4.4
女	35.8	25.1	32.4	6.7
20歳代	33.6	17.6	47.1	1.7
30歳代	36.7	21.2	38.3	3.8
40歳代	35.0	27.3	32.3	5.5
50歳代	34.2	31.9	29.9	4.0
60歳代	41.1	37.8	16.3	4.8
70歳以上	41.5	24.9	20.0	13.7
国語辞典「よく使う」	29.7	39.7	30.1	0.5
「ときどき使う」	37.8	29.7	30.1	2.3
「あまり使わない」	34.4	25.8	33.0	6.9
「まったく使わない」	44.6	20.7	23.6	11.1
「国語辞典はない」	42.2	15.6	22.2	20.0

それぞれの層でもっとも主流な回答（最頻回答）に濃い網掛け、2番目のものに薄い網掛けを施した

サンプリング式調査では辞典使用頻度の高い人ほど「表外字使用」が多くなって「交ぜ書き」が少なくなるが、ウェブ調査ではわずかにそのような傾向が共通して見える程度である。

表の網掛けの分布をながめてみると、ランダムサンプリング式調査では属性間の違いが相当大きいのにに対して、ウェブ調査ではあまり差が際だっていないように見える。これは、「このウェブサイトから自発的にアクセスして回答する」という点で、日本語に対する意識の面でどの人にも一定の共通性があり、属性の違いがそれほど目立たない「比較的均質な回答者集団」を形成しているものと考えすることはできないだろうか。

これは、逆に考えると、もしウェブ調査で年齢差が表れた場合には、現実の日本社会（具体的にはランダムサンプリング式調査の結果から推定する日本社会母集団）での年齢差は相当大きいものである可能性もあること

になる。

こうしたことを意識せずに、たとえば「ウェブ調査において『使い分け』の回答がもっとも多かった、だからおそらく日本全体の状況もこれと同じだろう」ということを論ずるのは、ウェブ調査の利用法として非常に危険である。当調査は、ある項目に関して実際に年齢差・地域差などがあるか（orありそうか）どうかを、ウェブサイトから自発的にアクセスしてくるという「特殊な集団」の結果から瀬踏みをしてみる、という発想に基づくのであれば、大きな力を発揮するものと考えている。

VII 本稿のまとめ

本稿の冒頭でも示したとおり、ウェブ調査はまだまだ開発・発展段階の調査法である。また、ウェブ調査の結果のみで「日本語の現

表 2b 字幕スーパーの漢字表記 [あなたは多数派? 少数派? 調査]

Q テレビの字幕スーパーについてお聞きします。現在、テレビの字幕スーパーに使う漢字は、基本的に学校の国語の授業で習う範囲のものを使うことになっています。たとえば、次のように「肋骨」「脾臓」「肛門」は学校で習わない漢字を含んでいるので、「ろっ骨」「すい臓」「こう門」と書くことになっています。このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。	ア. どんな番組であっても、字幕スーパーではだれでも読めるように「ろっ骨」「すい臓」「こう門」と書くべきだ	イ. どんな番組であっても、字幕スーパーではほとんどの漢字を使って「肋骨」「脾臓」「肛門」と書くべきだ	ウ. ひらがなで書くか漢字で書くかは、多くの人が見る番組か、あるいは専門的な内容の番組か、といったことによっても違ってもかまわない	(わからない)
	「交ぜ書き派」	「表外字使用派」	「使い分け派」	
全体	16.8	21.0	60.2	2.0
男	18.2	24.4	55.5	1.9
女	15.5	18.2	64.2	2.1
20歳代	19.8	16.5	60.4	3.3
30歳代	15.2	20.7	61.5	2.6
40歳代	16.6	20.7	60.9	1.8
50歳代	16.6	18.3	63.4	1.7
60歳代	15.6	21.7	61.7	1.1
70歳以上	20.0	34.6	44.6	0.8
国語辞典「よく使う」	15.2	28.2	54.1	2.5
「ときどき使う」	15.1	20.8	62.8	1.3
「あまり使わない」	20.5	16.2	61.3	2.0
「まったく使わない」	19.8	12.1	64.8	3.3
「国語辞典はない」	24.1	24.1	41.4	10.3

それぞれの層でもっとも主流な回答（最頻回答）に濃い網掛け、2番目のものに薄い網掛けを施した

状」を論ずるのは、よい方法とは言えない。ほかの方法による調査や、先行諸研究の成果も合わせて考察するべきである。

筆者は、ウェブ調査の結果にある程度の信頼性が認められることを、前稿（塩田雄大(2005)）においてはウェブ調査とランダムサンプリング式調査との比較によって示し、本稿においてはウェブ調査の結果と日本語学・言語学関連の先行諸研究の成果とを可能な限り対照することによって確認した。

まず、このような調査手法においては、「全体として〇〇%が〇〇という回答を選んだ」ということに関して「〇〇%」という数字自体はさほど意味を持たず、その内部構造（年齢差・地域差などの属性差）のありかたに積極的な価値を見いだすべきであることを主張した。

次に、年齢差の比較的大きい項目については、言語変化が始まっているもの、進行中のものとしてとらえることができ、「変化の兆し」を知る材料となることを記した。データの分析から、さまざまな属性差として、男女差・年齢差・東西地域差（現住所・出身小学校・出身中学校）・国語辞典使用頻度を比較してみると、当データにおいては年齢差が比較的大きく表れていること（4章）、高年層と若年層という2段階で年齢差が大きく表れた項目については、10歳区切りで細かく見た場合でも、漸増的・漸減的な年齢差が鮮やかに見られるものが多い（5章の1）ことを示した。

また、ある「ことばのゆれ」の現象に関して、地域差が比較的大きい場合、それが言語変化に関連しているのであれば、その変化の速度・方向性が全体として必ずしも一様でな

いことを示すものとなることを記した。データの分析から、地域差の大きく表れた項目については、これまでの先行諸研究の成果と符合する結果になっているものが多いことを明らかにした（5章の2）。

そして、本データの分析から、これまでおそらく報告されたことのない言語上の年齢差・地域差のあるものがいくつか観察された。具体的にいくつか列挙すると、

○「お寺・神社 [] 参拝する」での助詞：高齢層では助詞「に」で安定しているが、年齢が若くなるに従って「を」が多くなる²⁸⁾

○「おかげさまで」という言い方：この言い方について「使う」「問題ない」という人は、高齢層では多いが、年齢が若くなるに従って少なくなる

○「20日まで出てまいりません」という言い方：この場合「21日に出てくる」という回答が高齢層に多いが、年齢が若くなるに従って「20日に出てくる」という回答が多くなる

○漢字「鶏肉」の読み方：東日本では「トリニク」と読む人が多いが、西日本では「ケイニク」という読み方も広く用いられている。これは、ふだん「鶏の肉」のことを「トリニク」と言うか、あるいは「カシワ」と言うか、ということと強く関連しているものと思われる。

○メールに方言を用いる頻度：東北・関東ではあまり方言を用いないが、北海道および西日本では比較的良好に用いられているなどといったことを論じた。こうした項目は、現代の日本語において必ずしも均質でない様相を示すものであり、今後の変化を注視しておく必要がある。

こうしたデータを積み重ねてゆくことは、日本語の現況をさらに明らかにしてゆくことの一助となるだろう。

(しおだ たけひろ)

注：

1) 本稿で取りあげる「あなたは多数派?少数派?」調査の実施期間および回答者数は、以下のとおりである。

2004年10月(18日~11月14日) 1,905人回答
 11月(15日~12月19日) 2,943人
 12月(20日~1月16日) 1,854人
 2005年1月(17日~2月20日) 2,053人
 2月(21日~3月21日) 2,280人
 3月(22日~4月17日) 1,709人
 4月(18日~5月15日) 1,594人
 5月(16日~6月19日) 1,808人
 6月(20日~7月18日) 1,642人
 7月(19日~8月21日) 1,667人
 8月(22日~9月19日) 1,638人
 9月(20日~10月16日) 2,075人

なお、すべての設問・回答選択肢と全体平均結果を論文末に掲載した。

2) 質問設定の原案は、アクセント関連の項目については当研究所の坂本充が立案し、それ以外はNHK内外からの問い合わせ内容などを材料として、筆者が中心となって作製している。ただし2005年には漢字表記・外来語表記に関して重点的に調べる必要が生じ、これについては坂本充が設問を担当した。

3) 「東日本」は北海道・東北・関東・甲信越・東海地方をまとめたもので、愛知・岐阜・三重も東日本に含めている。また「西日本」は北陸・関西・中国・四国・九州沖縄をまとめたもので、富山・石川も西日本としてある。あくまで便宜的なまとめ方であることを付記しておく。

4) 「国語辞典の使用頻度差」は属性差と呼ぶのは必ずしもなじまないが、他の属性と比較する目的で

同列に扱うことにする。毎月の設問として以下のように尋ね、AとBを合わせて「国語辞典使用層」、CとDとEを合わせて「国語辞典非使用層」として扱った。

Q ふだん、国語辞典をお使いですか。この中から1つだけお答えください。

- A よく使う
- B ときどき使う
- C あまり使わない
- D まったく使わない
- E 国語辞典はない

5) ただしこれは、次のようなことを考慮に入れておく必要がある。

ここで採用した「年齢差」は、「39歳以下」と「40歳以上」の集団間の差である。これを仮に「29歳以下」対「30歳以上」とで比べたとしたら、数値は異なってくることは言うまでもない。

それぞれの層に関する回答者の構成比(12回分平均)を算出すると、以下のようになる。

男性	46.2%	女性	53.8%
39歳以下	66.1%	40歳以上	33.9%
東日本	67.2%	西日本	31.2% [現住所]
東日本	59.8%	西日本	39.4% [小学校]
東日本	62.2%	西日本	37.1% [中学校]
辞典使用	69.2%	不使用	30.8%

なお前稿(塩田雄大(2005))におけるウェブ調査とランダムサンプリング式調査との対照結果からは、ウェブ調査において年齢差が見られた場合には、かなり多くの場合にランダムサンプリング式調査でも同じ傾向が見られる、ということが導かれている。

6) 過去にランダムサンプリング式調査でこの設問と類似した内容を尋ねたことがある(1999年11月11~14日実施, 1,363人回答)。

看護婦が患者に注射を打った後で「ご自分で腕をよくもんであげてください」

聞いたことがあるし、おかしくない	19%
聞いたことはあるが、おかしい	29
聞いたことはないが、おかしくない	7
聞いたことはないが、おかしい	43

ここで最頻回答である「聞いたことはないが、おかしい」を年代別に見てみると、35 [20代], 39 [30代], 43 [40代], 50 [50代], 44 [60歳以上] (%)となっており、年代が高くなるほどこの回答が多くなっている ([60歳以上] は例外)。これは、図4での傾向と共通していると判断できる。

7) 「おかげ」は、日本人のあいさつの中に根深く残っており、人力を越えたもの、神仏の加護とか、自然の力を大きく感じているあらわれだと思ふ。だから、あらゆるあいさつ語の受け答えに対して「おかげさまで」は通用する。神仏といっても、キリスト教などと違って、日本には神さまは八百万あるのだから、どの神さまの「おかげ」というのでもない。お天気がいいのも、病気が治ったのも、良縁を得たのも、さらに極楽往生したのも「おかげさまで」である。(奥山益朗 (1969) pp.74-75)

8) この言い方に誤解の余地があることは、NHKアナウンス室編(1997) pp.138-140でふれられている。

9) 外来語の表記に関して、昔は「ヤ」で書いていたのを現代では「ア」で書くものがある、ということについて、塩田雄大(2002)で論じたことがある。

10) 北原保雄(1984) p.217には、「[人が ある]といういい方は認めなければならない」という項が立てられており、「人が ある」のような用例を無視すべきではないことが唱えられている。

紙幅の関係上ここでは詳述できないが、「(人が)ある」という言い方に関する一連の設問(0508 Q 2~Q 6)に対して、「聞いたこともないし、この言い方には問題があると思う」という回答が「若年層に多く高年層に少ない」という傾向が、Q 2・Q 3・Q 5・Q 6において共通している。

本稿の調査結果は、日本語の歴史的な変化として有生物への「ある」の使用を許容しない方向に進みつつあることを指摘・実証した金水敏(2004)(2005)や鈴木英夫(1998)の結論と軌を一にする。なお、金水敏(2005) p.155では、存在表現に関し

て人間・有生物とそれ以外とを語彙的に区別する言語が日本語以外にあっても不思議ではない、ということが言及されているが、韓国・朝鮮語の gyesida (いらっしやる [存在]) と isseusida (おありである [存在]) との区別は、おおむねこれに該当するのではないだろうか。

11) 常用漢字表の範囲内では「鶏」には「ケイ」という読み方しか指定されておらず、「トリ」とは読まないことになっている。つまり、「トリニク」を漢字で書く場合には「鳥肉」とすることになっている。しかし現実には「鶏肉」という漢字表記を目にする機会が一般に多い。それに対して「ケイニク」という発音を耳にすることはまれであると判断できるだろう。NHKでは、「鶏」に「トリ」という読みを追加することを、平成13年に決定している(『NHK新用字用語辞典第3版』冒頭p.41参照)。

12) このうち図13「コブ〜コンブ」については、「色葉字類抄」に「コフ」、「伊呂波字類抄」に「コフ」とあり、中古末にはすでに「こぶ」「こんぶ」の両称が行なわれていた可能性があり、その併称は今日までつづいている。」という指摘がある(『日本国語大辞典 第二版』(2001)の「こんぶ」の項)。

また、図19の「旅客」に関しては、NHKでは現在リョキヤクとリョカクの両方の読み方を対等に認めている。これと類似のことばに「顧客」があり、コキヤクとコカクを対等に認めていたが、2001年2月の放送用語委員会でも[1.コキヤク 2.コカク]というように改定した経緯がある(放送研究部(2001))。なお文化庁編(1995) pp.411-412では、「旅客」はリョカクと読むほうが好ましい、と記されている。

13) 現時点ではまだ断定できないが、ウェブ調査において得られる60歳以上のデータは、現代の「60歳以上」全体と比べて、やや特異な回答様相を示すことがあるように感じている。これは、この回答者集団が全体として「ウェブ調査に積極的に回答する」という点で特殊であるなかで、わけても

60歳以上に関しては「平均的な60歳以上」の層との違いが大きいことによるのではないかと（たとえば20代の方がパソコンを使うのはまったく珍しいことではないが、60歳以上の人の場合には現時点ではまだ「珍しい」部類に入るかもしれない）、と筆者は推定している。今後の課題としたい。

- 14) なお、相手に「考えておこう」と言われたらあきらめるかどうかということを全国の高校生に対してアンケートで尋ねた先行研究（徳川宗賢（1993））がある。設問形式は以下のとおり。

Q 友だちに頼みごとをしたとします。たとえば人を紹介してほしいなど。相手は「考えておこう」と答えました。しばらく待って、頼みを実現しない場合、あなたならどうすると思いますか。a, bいずれかを選んでください。

a. 考えてくれたかどうか尋ねてみる。

b. ことわられたのだと思いあきらめる。

この結果の分析として、「考えておこう」という返事に対して、あきらめるもの（b）が国の両端で多く、」（徳川宗賢（1993）pp.572-574）という記述がなされている。

本稿では、設問意図・形式ともにこれとは異なるが、表1に示したとおり東西地域差は表れなかった。

また、一般にこの言い方は関西圏で特に多用されると言われるが、本稿のデータを地域ブロック別に見ると、全国平均に比して関西（現住所）でやや多い回答は「自分でもこのように言うことはあるが、この言い方には問題があると思う」であった（全国32.6%、関西36.4%）。

- 15) 「旅客機」については、「りよかくき」と書き表して実際の発音はリョカッキのようになる、という旨が文化庁編（1995）pp.346-349に記されている。

- 16) ただし、0410 Q6 「すし1カンは何個か」は、現住所・出身小学校・出身中学校との間で、結果にやや違いがある。「すし1カン」という言い方は、子どものころに習得されることではなく、ある程度大人になってから耳にすることであり、生育地ではなく現住所のほうが結果に大きく関与す

るものと想像される。そのため、「すし1カン」の設問においては出身小学校・出身中学校の要因があまりないのであろう。

なお、すしを数える単位としての「カン」は比較的新しい言い方であり、『日本国語大辞典 第二版』（2001）には掲載されていなかったが、『精選版日本国語大辞典』（2006）の「貫」の項に「[接尾] 握り鮓を数えるのに用いる。」という説明が新たに加えられている。

- 17) 『現代日本語方言大辞典』（明治書院）で「カシワ」を鶏肉の意味で載せているのは、秋田・富山・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山（「カシワノニク」で立項）・大洲〔愛媛〕である。そして福岡については「カシワは新しい言い方」という記述がある（以上「肉」の項）。そのほか、鹿児島〔鶏肉を〕カシワと言うのは新しい言い方（「鳥」の項）、愛知〔鶏肉はもっばらカシワと言ひ、トリ、トリニクなどの語を用いない〕（「鶏」の項）という記述もある。あわせて、長野〔鶏の肉は、トリニクと言う。（カシワは）鶏一般について言う〕と記されている（「鶏」の項）。整理すると、鶏肉の意味での「カシワ」使用地域として秋田・愛知・富山・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山・大洲・福岡・鹿児島が提示されていることになる。

また、「トリ肉を食べる」という言い方が、東京ではごくふつうであるが、名古屋あたりでは、品のない言い方とされる。正式な言い方は「カシワを食べる」である。名古屋はコーチンの名産地であるから、それだけトリ肉にはやかましいのかもしれない。（金田一春彦（2004）p.278, 初出は1965年の東京新聞・中部日本新聞）という指摘もある。

歴史的な面から見ると、江戸後期の資料には「江戸の俗ハ御叮嚀ニ鰻泥うなぎすっぱん鼈かじはと唱へりまして鶏を柏などハ決していはず」という記述（『皇都午睡 三編』；『日本国語辞典 第二版』（2001）の「かしわ」の項では同書を1850年成立とし上掲の用例について中巻に掲載としているが、筆者が実見できたのは1883年の版で上巻に掲載されていた）が見られ、江戸時代の江戸では鶏のことをカシワとは言わなかったことがわかる。

なお、「かしわ」が鶏肉の総称となるのは、天保(1830-1844)以降であるという(『日本国語大辞典 第二版』「かしわ」の項)。

「かしわ」はそもそも鶏の一品種名であり、またその肉のことを指した。「かしわ」ということばがあるが、これは、関西で飼っていた羽毛の黄色い品種、黄鶏^{かしわ}のことである。(中略) 関西で「かしわ」を食用としていたころ、関東ではシャモ(軍鶏)が好まれていた。(山口米子(1987)『日本の東西「食」気質』p.110)

「かしわ」が関西で好まれていたことを裏付ける資料として、江戸時代の『守貞謄稿』に「文化以来、京坂はかしわと云ふ鶏を葱鍋に煮て食すこと専らなり。江戸はしやもと云ふ鬮鶏を同製にして、これを売る。」という記述がある(喜田川守貞『近世風俗志(守貞謄稿)(一)』岩波書店、1996.5翻刻、p.214)。

これらを総合して考えると、おそらく近畿圏において江戸後期に生まれた『カシワ』の新用法(鶏肉の総称としての『カシワ』)が東海や九州の一部にまでも広まったが、東海より東には日本海側の一部(上掲『現代日本語方言大辞典』で言えば富山・秋田)を除くとあまり一般化しなかった、というように想定できるのではないだろうか。

この推定は、今回の地域差の調査結果とほぼ符合する内容になっている。

18) 「～されてください」に関するこれまでの研究は、日高貢一郎(2005)(2006)にまとめられている。

19) 『現代日本語方言大辞典』の「油揚げ」の項では、「オアゲ」の使用地域として京都・兵庫・香川が、また「ウスアゲ」の使用地域として長野・大阪・福岡・長崎・福江〔長崎〕が挙げられている。本稿の調査結果とは、「オアゲ」については合致するが、「ウスアゲ」についてはあまり一致しない。

20) この傾向は、日常における標準語と方言との使い分けについてランダムサンプリング式調査(全国)で尋ねた結果(石野博史ほか(1992))とおおむね合致する。これは、「ふだん家の中で家族の人と話すとき」「PTAや地域の会合などで発言すると

き」などの状況で方言をどの程度使うかを質問したもので、「方言の使用は西高東低」という結論が導かれている(ただし同調査では地域別の集計結果を示すのに北海道と東北を統合してしまっているために、本稿の同様の結果(方言使用に関して北海道は多く東北はやや少ない)は表れていない)。なお、このメールでの方言使用に関する項目には、年齢差が存在する。「方言をまじえて書くことがほとんどである」と「ときどきある」とを統合した数値は、42% [全体] に対して、47% [10代]、52% [20代]、45% [30代]、33% [40代]、33% [50代]、26% [60歳以上] で、若くなるほど方言使用が多くなる形になっている(10代はやや例外)。さきほどの表1で年齢差があまり強く表れなかったのは、最頻回答である「ときどきある」のみについて年齢差を算出したからである。計算方法については今後とも検討を加えたい。

21) 「口が肥える」は、『日本国語大辞典 第二版』(2001) および『精選版 日本国語大辞典』(2006)に項目として立てられていない。見坊豪紀(1988) p.12では、「ところが、口のこえた消費者はまぜい外米は食べない。」(日本経済新聞1965.9.27夕刊)という例が紹介されている。また『新明解国語辞典』では、初版(1972)以降「口が肥えている」を掲載している。

「舌が肥える」と「口が肥える」のどちらが本来の言い方なのか、ということについて、「口」には「口に合う」「口がおごる」といった食べることに関する慣用句があることから、「口が肥える」がもともとの言い方であったという記述がある(NHKアナウンス室編(1997) pp.76-77, 杉戸清樹氏の指摘)。

22) 「身を粉[コ/コナ]にする」という言い方については、表1で示したとおり年齢差はあまり見られなかったが、本来の「コ」ではなく「身をコナにして」という誤りが一般化しつつある、という指摘がある(佐竹秀雄(2000) p.86)。このような慣用句については、このウェブ調査に回答するような人たちは、若い人であっても一般に伝統的な形を答える傾向があるものと想定できるため、ラ

ンダムサンプリング式調査ではこれとは異なった傾向が表れる蓋然性もあるだろう。

23) 前田富祺監修 (2005)『日本語源大辞典』p.506の「こな」の項には、コノほうが古いことばであるのに対して、コナは近世になって用いられるようになったことばであり、これは江戸の戯作文学に例が見られることから、コナはもともと江戸語と意識されていたと記述されている。これに対して本稿の結果では、現代ではコナがやや多いのは関西や四国になっている。江戸時代の地域差がすでに消失してしまっているのか、あるいは「身を粉にする」という慣用句における特殊な出来事なのか、現時点では判断としない。

24) 「すし1カン」が本来何個を表したもののなのかにについては、1個・2個の両方の説があり、現在でも確定していない。筆者は、以下の2点から、「1カン=1個」説を支持している。

a. 昭和初期の資料に、芸妓の隠語として「1個」を意味する「1カン」が「料理場専用」という付記とともに紹介されていること(花園歌子(1930)『モダン軟派語彙』『芸妓通』p.171)。本書の冒頭には、芸妓の隠語は少なく、まれにあっても他の社会集団の隠語を踏襲したものである旨が述べられており、「1カン」が当時の料理界の隠語としてすでにあったことを推定させる。なお現代の料理関係の業界用語として豆腐・天ぷらも「1カン」という数え方をすることがあると土田滋(1999)に紹介されている(ここから考えると、「『カン』という数え方は、すし独特のもの」という説(たとえば話題の達人倶楽部(2005)p.19)は、正しくない)。

b. 「2カンづけ」(ひとつのすしダネを2つずつ握って同時に客に供する方法)という言い方が存在すること(もし「1カン=2個」であったら同時に4個供することになってしまう)。「2カンづけ」については日比野光敏(2001)『すしの事典』(東京堂出版)pp.339-340参照。

「1カン=2個」説の背景としては、「2つずつ同時に供する方法」が一般化した結果、一般人には比較的耳新しい助数詞である「~カン」に対して、

「あの方法(=2カンづけ)」で出てくる1セット(=2個)のことを「1カン」と呼ぶのだ、という「誤解」が生じたことによるものと考えすることはできないだろうか。

25) この料理が生まれたときの名称は、東京では「中華丼」であったことが以下の記述からわかる。「カツ丼はつまり客がその考案者だったわけだが、天津丼と中華丼も同じく、そのもともとの考案者は客であった。東京・浅草に来々軒という中華料理屋があった。昭和の初期のある日のこと、客がカニ玉とご飯を注文し、時間がないからといって、ご飯の上にカニ玉をのっけてくれと頼んだ。すると他の客も八宝菜とご飯を注文し、同じようにご飯の上に八宝菜をのっけてくれと頼んだ。それがヒントになって天津丼と中華丼が生まれることになる。来々軒ではそれぞれ天津丼、中華丼と名付け、メニューに加えた。」(北嶋廣敏(1999)『話のネタ大事典 思わず人に教えたくなるおもしろ知識』(PHP文庫)p.211)

またこの「来々軒」とおそらく同一の店が、以下の記録にも表れている。昭和九年(1934)五月二日(水曜)「一回終って、来々軒の雲吞と中華丼を食った。」(『古川ロッパ昭和日記・戦前編』p.46)なお、これより古いものとしては、管見では昭和8年(1933)の雑誌広告に載せられたメニューに中華丼(ウマニカケメン) 二〇銭という例を見つけることができた。東京・浅草の「直営大衆食堂」のものである(『月刊食道楽』昭和8年6月、小菅桂子(1997)『近代日本食文化年表』(雄山閣)に掲載)。

26)『現代日本語方言大辞典』の「はず(蓮)」の項を見ると、全国的には植物としての名称がハス、その地下茎がレンコンである、という使い分けをするところが多い。ただし、東京ではハスが「水蓮の花」および「蓮根」を指すこと、また岐阜では「蓮根をハスと言うことはない」ことが記されている。

また、「東京の連中は普通「ハスを食べる」という言い方をして、もちろんハスの根、やかましくいうと地下茎を食べることを意味するが、こんなこ

とを九州あたりで言うと、土地の人に笑われる。ここではあくまでも「蓮根を食べる」という言い方をし、「ハスを食べる」では、ハスの花を食べるように受取られるからだ。」(金田一春彦(2004) p.278, 初出は1965年の東京新聞・中部日本新聞)という指摘もある。

こうしたことと本稿での調査結果を合わせて考えると、地下茎部分はレンコンと呼ぶのが全国共通語的であるが、東京ではハスという言い方もされておられ、それが周辺部の関東・甲信越をはじめとして広まったものと推定できる。

27) 「香の物」と「沢庵漬」に関しては、『浪花聞書』に、「かうへ 沢庵漬にかぎりてかうへといふ沢庵漬とはいわず」また、『守貞漫稿 食類』(嘉永六年1853成)に、「塩糠にて乾大根を漬たるを、京坂にては専ら香の物或は香々とのみ云、江戸にては沢庵漬と云也」とあり、京坂の「香の物」「かうかう」に対し、江戸では「沢庵漬」という相違があったと思われる。」(蜂谷清人(1982) p.118, 体裁をやや加工して引用)

なお、『物類称呼』(1775)には「菜庵漬 だいこんづけ○京にて○からづけといふ。九州にて○ひやくぼんづけと云。關東にて○たくあんづけといふ」(京都大学文学部国語学国文学研究室編(1973)『諸国方言 物類称呼 本文・釈文・索引』p.326から引用)となっており、「関東」における「たくあんづけ」が記されている。

28) ただし、有識者と大学生を対象にしたアンケートで、有識者のほうが「～を参拝する」という言い方を「許容できない」とする回答が多い、という結果が得られている(石野博史(1981))。これは、本稿の結果(年齢差)と合致する。

石野博史(1981):有識者(102人;50代が中心)・大学生(123人) 回答
1981年3月～5月実施(郵送法アンケート)

Q 「靖国神社に参拝する」は昔からある普通の言い方ですが、最近では、これに対して、「靖国神社を参拝する」という形もかなり勢力をもってきたようで、新聞などにはよく

出てきます。「参拝」ということばの意味が変わってきたのでしょうか、この「～を参拝する」という言い方について、どう考えですか。

	有識者	大学生
許容してよい	13.7%	27.6%
許容できない	71.6	44.7
どちらとも言えない	13.7	27.6

この設問は、「～に参拝する」のほうが伝統的表現であるという前提知識を与えたいという質問なので、回答にあたっては「規範意識」が相当強くはたらいいたものと想像できる。

引用文献

- 石野博史(1981)「『順風満帆』をどう読みますか—有識者アンケート(第2回)の結果報告—」『文研月報』第31巻8号[1981.8]
- 石野博史・丸田実・木佐敬久・安平美奈子(1992)「第6回言語環境調査から 変わりゆく日本語」『放送研究と調査』第42巻4号[1992.4]
- NHKアナウンス室編(1997)『失敗しない話しことば』河出書房新社
- 大隅昇(2001)「電子調査, その周辺の話題—電子的データ取得法の現状と問題点—(公開講演会要旨)」『統計数理』49(1)(通巻93)
- 大隅昇(2002)「インターネット調査の適用可能性と限界—データ科学の視点からの考察—」『行動計量学』29(1)(通巻56)[2002.3]
- 奥山益朗(1969)『日本語は乱れているか』東京堂出版
- 北原保雄(1984)『日本語文法の焦点』教育出版
- 金水敏(2004)「近代日本小説における「(人が)いる/ある」の意味変化」『待兼山論集』38
- 金水敏(2005)「歴史的に見た「いる」と「ある」の関係」『日本語文法』5-1
- 金田一春彦(2004)「ことばの歳時記」『金田一春彦著作集 第十一巻』玉川大学出版部
- 見坊豪紀(1988)『現代日本語用例全集2』筑摩書房
- 佐竹秀雄(2000)『サタケさんの日本語教室』角川文庫
- 佐藤亮一監修(2002)『お国ことばを知る 方言の地

- 【図帳】小学館
- 塩田雄大 (2002) 「ダイヤルかダイアルか？」『日本語学』第21巻第14号 2002年11月臨時増刊号 (『日本語あれこれ事典』明治書院 [2004.5] に再録)
- 塩田雄大 (2005) 「言語変化と規範意識・使用意識 その現状把握手段としての公開型ウェブ調査の試み」『NHK放送文化研究所年報』第49集
- 柴田実・塩田雄大 (2005) 「放送と漢字について ～「字幕スーパーの漢字に関する意識調査」および諸問題～」『放送研究と調査』第55巻12号 [2005.12]
- 鈴木英夫 (1998) 「規範意識と使用の実態 —— 「(人が) ある」と 「(人が) いる」を中心として」『日本語学』17-6 [1998.5]
- 土田滋 (1999) 「湯豆腐の席で」『鈴木孝夫著作集月報2』(『日本語と外国語 鈴木孝夫著作集5』(岩波書店) の付録)
- 徳川宗賢 (1993) 「ことばづかひの風土性」『方言地理学の展開』ひつじ書房
- 蜂谷清人 (1982) 「歌舞伎の語彙——『五大力恋緘』の場合」『講座日本語の語彙 第5巻 近世の語彙』
- 林知己夫 (2001) 「調査環境の変化と新しい調査法の抱える問題 (公開講演会要旨)」『統計数理』49 (1) (通巻93)
- 日高貢一郎 (2005) 「新しい敬語表現「～させていただきます」の広がり」『日本方言研究会第80回研究発表会発表原稿集』
- 日高貢一郎 (2006) 「方言と共通語のはざままで—「～させていただきます」と「□時前△分」—」『日本語学』第25巻第1号 [2006.1]
- 文化庁編 (1995) 『言葉に関する問答集 総集編』
- 放送研究部 (2001) 「用語の決定 ～「惨敗」「七日」「便覧」「蠅」「免れる」ほか～」(塩田雄大執筆) 『放送研究と調査』第51巻第4号 [2001.4]
- 本多則恵・本川明 (2005) 『インターネット調査は社会調査に利用できるか —実験調査による検証結果—』労働政策研究報告書2005 No.17 独立行政法人労働政策研究・研修機構
- 本多則恵 (2005) 「社会調査へのインターネット調査の導入をめぐる論点 —比較実験調査の結果から—」『労働統計調査月報』57 (2) (通号673) [2005.2]
- 松田映二 (2005) 「複合調査に向かうアメリカ, 混迷する日本」『AIR 21』182 [2005.7]
- 横原東 (2001) 「マーケティングにおけるインターネット調査の実状と課題 (公開講演会要旨)」『統計数理』49 (1) (通巻93)
- 吉村宰 (2001) 「インターネット調査にみられる回答者像, その特性 (公開講演会要旨)」『統計数理』49 (1) (通巻93)
- 話題の達人倶楽部 (2005) 『ミョ～に気になる! 日本語の大疑問』青春出版社

単純集計表

今回対象とした項目の全体結果は以下のとおりである。
 設問頭の4ケタ数字は、たとえば「0410」は2004年10月実施分であることを示す。
 a.b.c.等の符号はももとの調査ページでは振っておらず、ここで便宜的に付したものである。
 なお毎月Q1はアクセント関連の設問(月替わり)、Q7は国語辞典使用頻度に関する設問(毎月同一)であり、ここでは省略した。

- 0410 Q2 あなたは、次のような「あげて」の使い方をどこかで聞き見たことがありますか。あてはまるものがあれば、いくつでもお答えください。
 (看護師が患者に注射を打った後)
 「ご自分でよく腕をもんであげてください。」
- a. 人が話すのを直接聞いたことがある 58.3
 - b. テレビで見聞きしたことがある 33.8
 - c. ラジオで聞いたことがある 8.1
 - d. 新聞で見たことがある 3.5
 - e. 漫画で見たことがある 8.7
 - f. 漫画以外の雑誌で見たことがある 6.3
 - g. ホームページやメールで見たことがある 9.9
 - h. その他のものを通して見聞きしたことがある 13.9
 - i. 見たり聞いたりしたことはない 32.2
- 0410 Q3 問2のような「あげて」の使い方についてどう思いますか。この中から1つだけお答えください
- a. おかしいと思わないし、自分でも使う 9.1
 - b. おかしいとは思わないが、自分では使わない 8.3
 - c. おかしいとは思いますが、自分でも使う 13.2
 - d. おかしいと思うし、自分でも使わない 69.4
- 0410 Q4 あなたは、次のような「書かれて」の使い方をどこかで聞き見たことがありますか。あてはまるものがあれば、いくつでもお答えください。
 (会社などの受付で署名を求められたとき)
 「ここに名前を書かれています。」
- a. 人が話すのを直接聞いたことがある 20.6
 - b. テレビで見聞きしたことがある 7.5
 - c. ラジオで聞いたことがある 2.0
 - d. 新聞で見たことがある 1.0
 - e. 漫画で見たことがある 1.3
 - f. 漫画以外の雑誌で見たことがある 0.9
 - g. ホームページやメールで見たことがある 3.0
 - h. その他のものを通して見聞きしたことがある 6.4
 - i. 見たり聞いたりしたことはない 73.6
- 0410 Q5 問4のような「書かれて」の使い方についてどう思いますか。この中から1つだけお答えください。
- a. おかしいと思わないし、自分でも使う 1.5
 - b. おかしいとは思わないが、自分では使わない 2.0
 - c. おかしいとは思いますが、自分でも使う 2.5
 - d. おかしいと思うし、自分でも使わない 94.0
- 0410 Q6 にぎりずしを数えるとき、「1カン(貫)、2カン」と言うことがあります。この「1カン」ということばの意

味は、「にぎりずし1個」でしょうか、「にぎりずし2個」でしょうか。

- a. にぎりずし1個 52.5
 - b. にぎりずし2個 47.5
- 0411 Q2 次にあげるものは、「薄く切った豆腐を油で揚げたもの」を意味することばです。
 (厚く切って揚げた「厚揚げ(豆腐)・生揚げ(豆腐)」のことは、ここでは考えないでください)
 この中にあなたがふだん使う言い方があれば、いくつでもお答えください。
- a. あぶらあげ 83.6
 - b. あぶらげ 26.9
 - c. あげ 0.3
 - d. おあげ 20.4
 - e. おあげさん 11.6
 - f. うすあげ 13.8
 - g. すしあげ 1.4
 - h. てあげ 0.3
 - i. かわあげ 0.1
- 0411 Q3 次のA・Bについて、あなたはどのように発音しますか。もっとも近いものを下の4つの中から1つだけお答えください。
 A「～をくじかれた」(出端)
 B「(鬼も十八,)番茶も～」(出花)
- a. 両方とも清音 1.8
 (「デハナをくじかれた」「番茶もデハナ」)
 - b. 両方とも濁音 85.4
 (「デバナをくじかれた」「番茶もデバナ」)
 - c. Aは清音、Bは濁音 3.6
 (「デハナをくじかれた」「番茶もデバナ」)
 - d. Aは濁音、Bは清音 9.3
 (「デバナをくじかれた」「番茶もデハナ」)
- 0411 Q4 次にあげるものは、「大根のぬか漬け」を意味することばです。
 (白菜などほかの野菜の漬け物のことは、ここでは考えないでください)
 この中にあなたがふだん使う言い方があれば、いくつでもお答えください。
- a. たくあん 71.9
 - b. たくわん 48.9
 - c. たくあんづけ 8.8
 - d. たくわんづけ 6.1
 - e. こうこ 7.9
 - f. おこうこ 11.2
 - g. しんこ 4.9
 - h. おしんこ 43.0
 - i. おしんこう 6.6
- 0411 Q5 次のA・Bについて、あなたはどのように発音しますか。もっとも近いものを下の4つの中から1つだけお答えください。
 A「～で出汁(だし)をとった」
 B「とろろ～」
- a. 両方ともコブ 6.7
 (「コブで出汁をとった」「とろろコブ」)
 - b. 両方ともコンブ 62.7

- (「コンブで出汁をとった」[「とろろコンブ」])
- c. Aはコブ, Bはコンブ…………… 18.5
(「コブで出汁をとった」[「とろろコンブ」])
- d. Aはコンブ, Bはコブ…………… 12.1
(「コンブで出汁をとった」[「とろろコブ」])
- 0411 Q6 次の[はけ口]について、あなたはどのように発音しますか。1つだけお答えください。
「精神的ないらだちの[はけ口]として幼い子どもを虐待した身勝手な犯行だ。」
- a. ハケクチ…………… 3.1
b. ハケグチ…………… 96.9
- 0412 Q2 「風向き」の言い方についてお尋ねします。この中から1つだけお答えください。
「風向きが変わってきた。」
- a. カザムキということばしか聞いたことが…………… 70.2
ないし、自分もカザムキとしか言わない
- b. カゼムキということばしか聞いたことが…………… 1.0
ないし、自分もカゼムキとしか言わない
- c. カザムキもカゼムキも聞いたことがあるが、…………… 26.9
自分はどちらかといえばカザムキと言うほうが多い
- d. カザムキもカゼムキも聞いたことがあるが、…………… 2.0
自分はどちらかといえばカゼムキと言うほうが多い
- 0412 Q3 次のA・Bについて、あなたはどのように発音しますか。もっとも近いものを下の中から1つだけお答えください。
A「旅客の安全を第一に考える。」
B「旅客列車が脱線した。」
- a. 両方ともリョカク…………… 21.7
(「リョカクの安全」[「リョカク列車」])
- b. 両方ともリョキャク…………… 16.8
(「リョキャクの安全」[「リョキャク列車」])
- c. Aはリョカク, Bはリョキャク…………… 7.9
(「リョカクの安全」[「リョキャク列車」])
- d. Aはリョキャク, Bはリョカク…………… 53.6
(「リョキャクの安全」[「リョカク列車」])
- 0412 Q4 次のことばについて、あなたはどのように発音しますか。この中から1つだけお答えください。
「片側通行」
- a. カタカワ(清音)ということばしか聞いたことが…………… 0.4
ないし、自分もカタカワとしか言わない
- b. カタガワ(濁音)ということばしか聞いたことが…………… 94.1
ないし、自分もカタガワとしか言わない
- c. カタカワもカタガワも聞いたことがあるが、…………… 0.2
自分はどちらかといえばカタカワ(清音)と言うほうが多い
- d. カタカワもカタガワも聞いたことがあるが、…………… 5.2
自分はどちらかといえばカタガワ(濁音)と言うほうが多い
- 0412 Q5 次のことばについて、あなたはどのように発音しますか。もっとも近いものを下の中から1つだけお答えください。
「旅客機が墜落した。」
- a. リョカクキ…………… 23.9
b. リョキャクキ…………… 7.3
c. リョカッキ…………… 64.2
d. リョキャッキ…………… 4.6
- 0412 Q6 次のことばについて、あなたはどのように発音しますか。1つだけお答えください。
「角から何軒目のお宅ですか。」
- a. ナンケンメ…………… 46.4
b. ナンゲンメ…………… 53.6
- 0501 Q2 次のことばについてお尋ねします。この中から1つだけお答えください。
「ピロティ」(または「ピロティー」)
- a. 聞いたことがあるし、どんなものか知っている…………… 38.4
b. 聞いたことはあるが、どんなものか知らない…………… 15.8
c. 聞いたことがない…………… 45.7
- 0501 Q3 次のA・Bについて、どのような助詞を使いますか。もっとも近いものを下の中から1つだけお答えください。
A「お寺(を/に)参拝する。」
B「神社(を/に)参拝する。」
- a. 両方とも「を」…………… 10.1
(「お寺を参拝する」[「神社を参拝する」])
- b. 両方とも「に」…………… 63.6
(「お寺に参拝する」[「神社に参拝する」])
- c. Aは「を」, Bは「に」…………… 15.0
(「お寺を参拝する」[「神社に参拝する」])
- d. Aは「に」, Bは「を」…………… 11.4
(「お寺に参拝する」[「神社を参拝する」])
- 0501 Q4 カッコの中の言い方についてお尋ねします。この中から1つだけお答えください。
「規制で(がんじがらみ/がんじがらめ)になる。」
- a. ガンジガラミということばしか聞いたことが…………… 3.8
ないし、自分もガンジガラミとしか言わない
- b. ガンジガラメということばしか聞いたことが…………… 71.2
ないし、自分もガンジガラメとしか言わない
- c. ガンジガラミもガンジガラメも聞いたことが…………… 5.3
あるが、自分はどちらかといえばガンジガラミと言うほうが多い
- d. ガンジガラミもガンジガラメも聞いたことが…………… 19.7
あるが、自分はどちらかといえばガンジガラメと言うほうが多い
- 0501 Q5 カッコの中の助詞についてお尋ねします。この中から1つだけお答えください。
「新鮮な野菜(を/を)売っているスーパーを探している。」
- a. この場合は「が」が正しいと思うし、自分も…………… 3.9
「が」と言うと思う
- b. この場合は「を」が正しいと思うし、自分も…………… 84.2
「を」と言うと思う
- c. この場合は「が」が正しいと思うが、実際に…………… 2.5
は自分は「を」と言うと思う
- d. この場合は「を」が正しいと思うが、実際に…………… 9.4
は自分は「が」と言うと思う
- 0501 Q6 次のことばについて、どのような漢字が使われているでしょうか。1つだけお答えください。ご自分や

お子さんの「実物」があれば、それを見てもかまいません。

- a. 通知表 …………… 76.4
- b. 通知票 …………… 23.6

0502 Q2 「味覚が発達している」という意味のことを言うときに、以下に挙げる2つの言い方のうち、どちらを使いますか。

- a. 「口が肥えている」と言う …………… 8.7
(「舌が肥えている」とは言わない)
- b. 「舌が肥えている」と言う …………… 78.8
(「口が肥えている」とは言わない)
- c. 両方とも使う …………… 8.6
- d. 両方とも使わない …………… 3.9

0502 Q3 おいしいものを食べたときに、以下に挙げる2つの言い方のうち、どちらを使いますか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「シタツツミを打つ」と言う …………… 49.7
(「シタツツミを打つ」とは言わない)
- b. 「シタツツミを打つ」と言う …………… 40.6
(「シタツツミを打つ」とは言わない)
- c. 両方とも使う …………… 3.3
- d. 両方とも使わない …………… 6.3

0502 Q4 罪の度合いがなはだしいときに、以下に挙げる2つの言い方のうち、どちらを使いますか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「ツミブカイ」と言う …………… 0.4
(「ツミブカイ」とは言わない)
- b. 「ツミブカイ」と言う …………… 96.9
(「ツミブカイ」とは言わない)
- c. 両方とも使う …………… 1.1
- d. 両方とも使わない …………… 1.7

0502 Q5 枝が折れないで曲がるようなときに、どのような言い方をしますか。

- a. それぞれ「枝がシナウ」「枝をシナワセル」と言う …… 2.7
- b. それぞれ「枝がシナウ」「枝をシナラセル」と言う …… 4.3
- c. それぞれ「枝がシナル」「枝をシナラセル」と言う …… 90.5
- d. それぞれ「枝がシナル」「枝をシナワセル」と言う …… 2.5

0502 Q6 ある人(〇〇部長)の会社に電話をしたところ、「〇〇部長は20日まで会社に出てまいりません」と言われました。あなたはどのように判断しますか。

- a. 〇〇部長が会社に出てくるのは、20日である …… 36.6
- b. 〇〇部長が会社に出てくるのは、21日である …… 63.4

0503 Q2 「みかんやオレンジなどの皮を混ぜて作ったジャム」のことを、何と言いますか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「ママーレード」と言う …………… 12.3
(「ママーレード」とは言わない)
- b. 「ママーレード」と言う …………… 67.9
(「ママーレード」とは言わない)
- c. 両方とも言う …………… 18.8
- d. 両方とも言わない …………… 0.9

0503 Q3 「それぞれの月ごとに」という意味のことばを、どう言

いますか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「マイゲツ」と言う …………… 0.6
(「マイツキ」とは言わない)
- b. 「マイツキ」と言う …………… 95.8
(「マイゲツ」とは言わない)
- c. 両方とも言う …………… 3.2
- d. 両方とも言わない …………… 0.3

0503 Q4 「それぞれの年ごとに」という意味のことばを、どう言いますか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「マイネン」と言う …………… 1.6
(「マイトシ」とは言わない)
- b. 「マイトシ」と言う …………… 78.6
(「マイネン」とは言わない)
- c. 両方とも言う …………… 19.4
- d. 両方とも言わない …………… 0.3

0503 Q5 「良家(の子弟)」ということばを、どう読みますか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「リョーカ」と読む …………… 7.5
(「リョーケ」とは読まない)
- b. 「リョーケ」と読む …………… 88.1
(「リョーカ」とは読まない)
- c. 「リョーカ」「リョーケ」の2通りの読み方をする …… 4.0
- d. 「リョーカ」「リョーケ」以外の読み方をする …… 0.4

0503 Q6 「両家」ということばを、どう読みますか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「リョーカ」と読む …………… 2.8
(「リョーケ」とは読まない)
- b. 「リョーケ」と読む …………… 94.4
(「リョーカ」とは読まない)
- c. 「リョーカ」「リョーケ」の2通りの読み方をする …… 2.5
- d. 「リョーカ」「リョーケ」以外の読み方をする …… 0.4

0504 Q2 テレビの字幕スーパーについてお聞きします。現在、テレビの字幕スーパーに使う漢字は、基本的に学校の国語の授業で習う範囲のものを使うことになっています。たとえば、次のように「肋骨」「脾臓」「肛門」は学校で習わない漢字を含んでいるので、「ろっ骨」「すい臓」「こう門」と書くことになっています。このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

- a. どんな番組でも、字幕スーパーではだれでも …… 16.8
読めるように「ろっ骨」「すい臓」「こう門」と書くべきだ
- b. どんな番組でも、字幕スーパーではもともと …… 21.0
の漢字を使って「肋骨」「脾臓」「肛門」と書くべきだ
- c. ひらがなで書くか漢字で書くかは、多くの人が …… 60.2
見る番組か、あるいは専門的な内容の番組か、といったことによって違ってかまわない
- d. わからない …………… 2.0

0504 Q3 「豹・狼・熊」「鯉・鯛・鮭」や「楓・椿・桐」なども学校の国語の授業では習いません。このような動植物名を字幕スーパーで使う場合どうしたらよいでしょうか。この中から1つだけお答えください。

- a. 「豹(ひょう)・狼(おおかみ)・熊(くま)」の …… 52.2

- ようにひらがなで読みを補うことが望ましい
- b. 「ヒョウ・オオカミ・クマ」のように漢字を …… 28.2
使わないで、カタカナで書くことが望ましい
- c. 「ひょう・おおかみ・くま」のように漢字を …… 1.2
使わないで、ひらがなで書くことが望ましい
- d. 「豹・狼・熊」のように漢字でそのまま書いてよい… 17.2
- e. わからない …… 1.3
- 0504 Q4 パソコンで表示できない漢字、たとえば石川県にある「白山比め神社(しらやまひめじんじゃ)」の「め」の字をインターネットで表示する場合、どうしたらよいでしょうか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「白山比め神社」とひらがなで書く …… 31.3
- b. 「白山比メ神社」とカタカナで書く …… 19.8
- c. 「白山比●神社」(●は口へんに羊と書く)と …… 40.5
注釈を入れる
- d. わからない …… 8.4
- 0504 Q5 「～すること・～したところ・～するとともに」などと書く場合、あなたはどのような書き方をしていますか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「～する事・～した所・～すると共に」 …… 18.9
と、漢字を使って書いている
- b. 「～すること・～したところ・～するとともに」と、すべてひらがなで書いている
- c. そのときによって漢字を使ったり、 …… 51.2
使わなかったり、まちまちである
- 0504 Q6 「どれくらい・それだけ・あれほど」などと書く場合、あなたはどのような書き方をしていますか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「どれ位・それ丈・あれ程」と、漢字を使って …… 6.5
書いている
- b. 「どれくらい・それだけ・あれほど」と、すべて …… 58.4
ひらがなで書いている
- c. そのときによって漢字を使ったり、 …… 35.1
使わなかったり、まちまちである
- 0505 Q2 接続詞の「したがって・ただし・ところが」などを、あなたはふだんどのように書いていますか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「したがって・ただし・ところが」とひらがなで …… 47.4
書いている
- b. 「従って・但し・所が」と漢字で書ける場合は …… 8.7
漢字を使って書いている
- c. そのときによって漢字を使ったり、 …… 43.9
使わなかったり、まちまちである
- 0505 Q3 副詞の「たぶん・はたして・やはり」などを、あなたはふだんどのように書いていますか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「たぶん・はたして・やはり」とひらがなで …… 40.6
書いている
- b. 「多分・果たして・矢張り」と漢字で書ける場合は …… 8.1
漢字を使って書いている
- c. そのときによって漢字を使ったり、 …… 51.3
使わなかったり、まちまちである
- 0505 Q4 つぎの「くる」「みる」「ください」などを、あなたはふだんどのように書いていますか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「暗くなってくる」「やってみる」「教えて …… 37.4
ください」のようにひらがなで書くことが多い
- b. 「暗くなって来る」「やってみる」「教えて …… 12.4
下さい」のように漢字で書くことが多い
- c. そのときによって漢字を使ったり、 …… 50.2
使わなかったり、まちまちである
- 0505 Q5 「ごはん・だめ・はがき」など一般に「かな書き」にする慣用のあるものは、どう表記したらよいと思いますか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「ごはん・だめ・はがき」のようにかな書きで …… 6.7
よいと思う
- b. 「御飯・駄目・葉書」のように漢字で書ける …… 13.1
ものは漢字を使ったほうがよいと思う
- c. 「ご飯・ダメ・ハガキ」など、そのときに …… 80.3
よって使いわけて書けばよいと思う
- 0505 Q6 熟字訓と呼ばれる漢字(棧敷・草履・土産など)を放送の画面で字幕スーパーするときは、どのようにしたらよいでしょうか。この中から1つだけお答えください。
- a. 「棧敷(さじき)・草履(ぞうり)・土産(みやげ)」 …… 64.9
のようにひらがなの補助情報をつけたほうがよい
- b. 「さじき・ぞうり・みやげ」のようにひらがなで …… 9.3
書いたほうがよい
- c. 「棧敷・草履・土産」のように漢字だけで十分 …… 25.7
である
- 0506 Q2 次の外来語をあなたはどのように書きますか。
[canaria (鳥)]
- a. カナリア …… 41.6
- b. カナリヤ …… 46.7
- c. 両方使う …… 11.8
- 0506 Q3 次の外来語をあなたはどのように書きますか。
[artist (芸術家)]
- a. アーティスト …… 7.7
- b. アーティスト …… 87.8
- c. 両方使う …… 4.5
- 0506 Q4 次の外来語をあなたはどのように書きますか。
[week (週)]
- a. ウイーク …… 12.1
- b. ウィーク …… 85.0
- c. 両方使う …… 3.0
- 0506 Q5 次の外来語をあなたはどのように書きますか。
[symposium (公開討論会)]
- a. シンポジウム …… 89.6
- b. シンボジウム …… 8.9
- c. 両方使う …… 1.5
- 0506 Q6 次の外来語をあなたはどのように書きますか。
[ropeway (空中ケーブル)]
- a. ローブウェイ …… 4.9
- b. ローブウエー …… 4.2
- c. ローブウェイ …… 66.4

- d. ローブウェー 22.8
 e. わからない 1.7
- 0507 Q2 カッコの中の言い方についてお尋ねします。この中から1つだけお答えください。
 「身を粉(コ/コナ)にして働く。」
- a. コということばしか聞いたことがないし、 42.0
 自分もコとしか言わない
 b. コナということばしか聞いたことがないし、 12.0
 自分もコナとしか言わない
 c. コもコナも聞いたことがあるが、自分は 30.6
 どちらかといえばコと言うことのほうが多い
 d. コもコナも聞いたことがあるが、自分は 15.4
 どちらかといえばコナと言うことのほうが多い
- 0507 Q3 次のことばをどう読みますか。この中から1つだけお答えください。
 「鶏肉」
- a. 「ケイニク」と読む 6.2
 (「トリニク」とは読まない)
 b. 「トリニク」と読む 55.9
 (「ケイニク」とは読まない)
 c. 「ケイニク」「トリニク」どちらの読み方も 9.8
 するが、自分はどちらかといえば「ケイニク」と読むことのほうが多い
 d. 「ケイニク」「トリニク」どちらの読み方も 28.1
 するが、自分はどちらかといえば「トリニク」と読むことのほうが多い
- 0507 Q4 次のことばをどう読みますか。この中から1つだけお答えください。
 「豚肉」
- a. 「トンニク」と読む 0.2
 (「ブタニク」とは読まない)
 b. 「ブタニク」と読む 98.3
 (「トンニク」とは読まない)
 c. 「トンニク」「ブタニク」どちらの読み方も 0.1
 するが、自分はどちらかといえば「トンニク」と読むことのほうが多い
 d. 「トンニク」「ブタニク」どちらの読み方も 1.4
 するが、自分はどちらかといえば「ブタニク」と読むことのほうが多い
- 0507 Q5 中国料理店などで、ご飯の上に野菜・肉のあんかけをかけた食べ物がありますが、これはどのように呼ばれているでしょうか。
- a. 「中華丼(ちゅうかどん)」ということばしか 65.6
 聞いたことがないし、自分も「中華丼(ちゅうかどん)」としか言わない
 b. 「中華飯(ちゅうかはん)」ということばしか 3.1
 聞いたことがないし、自分も「中華飯(ちゅうかはん)」としか言わない
 c. 「中華丼(ちゅうかどん)」も「中華飯(ちゅうかはん)」も聞いたことがあるが、自分はどちらか 21.7
 といえば「中華丼(ちゅうかどん)」と言うことのほうが多い
 d. 「中華丼(ちゅうかどん)」も「中華飯(ちゅうかはん)」も聞いたことがあるが、自分はどちらか 7.7
 といえば「中華飯(ちゅうかはん)」と言うことのほうが多い
- 0507 Q6 職場などで自分が先に帰る場合、次のような言い方をしますか。また、この言い方についてどう思いますか。
 「お先(さき)します。」
- a. 自分でもこのように言うことがあるし、この 7.0
 言い方に問題はないと思う
 b. 自分でもこのように言うことはあるが、この 8.2
 言い方には問題があると思う
 c. 自分ではこのように言うことはないが、この 11.6
 言い方に問題はないと思う
 d. 自分ではこのように言うことはないし、この 73.2
 言い方には問題があると思う
- 0508 Q2 次の文の「あります」についてどう思いますか。
 「兄には子どもが2人あります。」
- a. 聞いたことがあり、この言い方に問題は 17.6
 ないと思う
 b. 聞いたことはあるが、この言い方には問題が 43.8
 あると思う
 c. 聞いたことはないが、この言い方に問題は 3.4
 ないと思う
 d. 聞いたこともないし、この言い方には問題が 35.2
 あると思う
- 0508 Q3 次の文の「あった」についてどう思いますか。
 「きのう来客があった。」
- a. 聞いたことがあり、この言い方に問題は 81.1
 ないと思う
 b. 聞いたことはあるが、この言い方には問題が 14.2
 あると思う
 c. 聞いたことはないが、この言い方に問題は 2.2
 ないと思う
 d. 聞いたこともないし、この言い方には問題が 2.4
 あると思う
- 0508 Q4 次の文の「あるか」についてどう思いますか。
 「そんなことをする奴があるか!」
- a. 聞いたことがあり、この言い方に問題は 78.4
 ないと思う
 b. 聞いたことはあるが、この言い方には問題が 18.9
 あると思う
 c. 聞いたことはないが、この言い方に問題は 1.0
 ないと思う
 d. 聞いたこともないし、この言い方には問題が 1.7
 あると思う
- 0508 Q5 次の文の「ありました」についてどう思いますか。
 「むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがありました。」
- a. 聞いたことがあり、この言い方に問題は 10.5
 ないと思う
 b. 聞いたことはあるが、この言い方には問題が 21.5
 あると思う
 c. 聞いたことはないが、この言い方に問題は 3.2
 ないと思う
 d. 聞いたこともないし、この言い方には問題が 64.8
 あると思う

0508 Q6 次の文の「ありませんでした」についてどう思いますか。

「乗客の中に、けが人はありませんでした。」

- a. 聞いたことがあり、この言い方に問題は…………… 52.2
ないと思う
- b. 聞いたことはあるが、この言い方には問題が …… 34.1
あると思う
- c. 聞いたことはないが、この言い方に問題は…………… 2.0
ないと思う
- d. 聞いたこともないし、この言い方には問題が …… 11.7
あると思う

0509 Q2 刺身などに添えられる、食用の「青い葉」がありますが、これはどのように呼ばれているでしょうか。

- a. 「しそ」ということばしか聞いたことがないし、…… 6.3
自分も「しそ」としか言わない
- b. 「おおば(大葉)」ということばしか聞いたこと …… 2.7
がないし、自分も「おおば(大葉)」としか言わない
- c. 「しそ」も「おおば(大葉)」も聞いたことがある …… 61.5
が、自分はどちらかといえば「しそ」と言う
ことのほうが多い
- d. 「しそ」も「おおば(大葉)」も聞いたことがある …… 27.0
が、自分はどちらかといえば「おおば(大葉)」と
言うことのほうが多い
- e. これ以外の呼び方をする ……………… 2.6

0509 Q3 煮物などによく用いられる、穴のたくさんあいた野菜がありますが、これはどのように呼ばれているでしょうか。「花」の部分の呼び名ではなく、「食べる部分」の呼び名についてお答えください。

- a. 「れんこん」ということばしか聞いたことがない… 23.8
し、自分も「れんこん」としか言わない
- b. 「はす」ということばしか聞いたことがないし、…… 0.1
自分も「はす」としか言わない
- c. 「れんこん」も「はす」も聞いたことがあるが、…… 70.7
自分はどちらかといえば「れんこん」と言う
ことのほうが多い
- d. 「れんこん」も「はす」も聞いたことがあるが、…… 5.3
自分はどちらかといえば「はす」と言うことの
ほうが多い
- e. これ以外の呼び方をする ……………… 0.1

0509 Q4 「ご家族はお元気ですか」と尋ねられて、「おかげさまで元気です」と答える場合があります。このように、「おかげさまで」という言い方を、直接的には世話になっていない人にまで言うことについて、どう思いますか。

- a. 何も世話になっていない場合であっても、…………… 66.4
自分でもこのように言うことがあるし、この
言い方に問題はないと思う
- b. 何も世話になっていない場合であっても、…………… 12.0
自分でもこのように言うことはあるが、この
言い方には問題があると思う
- c. 何も世話になっていない場合、自分では…………… 14.4
このように言うことはないが、この言い方に
問題はないと思う
- d. 何も世話になっていない場合、自分では…………… 7.2
このように言うことはないし、この言い方には
問題があると思う

0509 Q5 相手からのお願い・提案を断るつもりで「考えておきます」と言う場合があります。このような「考えておきます」について、どう思いますか。

- a. 自分でもこのように言うことがあるし、…………… 44.0
この言い方に問題はないと思う
- b. 自分でもこのように言うことはあるが、…………… 32.6
この言い方には問題があると思う
- c. 自分ではこのように言うことはないが、…………… 7.9
この言い方に問題はないと思う
- d. 自分ではこのように言うことはないし、…………… 15.5
この言い方には問題があると思う

0509 Q6 メールを書いて友人に出すときに、方言をまじえて書くことがありますか。

- a. 方言をまじえて書くことがほとんどである…………… 8.8
- b. 方言をまじえて書くことがときどきある…………… 32.9
- c. 方言をまじえて書くことはあまりない…………… 28.9
- d. 方言をまじえて書くことはまったくない…………… 25.0
- e. ふだんメールを使わない ……………… 4.4

